資料２

# 第2次
# かすがい市民文化振興プラン
# 改定骨子案

春 日 井 市

# 目次

第１章　計画の改定にあたって
1　計画の目的と見直しの背景 ..... 1
2　計画の位置づけ ..... 2
3　計画の期間 ..... 2
4　計画の対象となる文化の範囲 ..... 3

第２章　現状と課題
1　社会的背景と文化振興の取組 ..... 4
2　春日井市の現状 ..... 7
3　前期プランの検証 ..... 39
4　現状を踏まえた課題 ..... 48

第３章　プランの基本的な考え方 ..... 51
1　基本理念 ..... 51
2　基本目標 ..... 53
3　施策の体系 ..... 54

～～～～～～～～～　以降は今後の審議会での審議内容　～～～～～～～～～～

第４章　施策の展開、成果指標
1　◆◆◆◆ ..... ●
2　◆◆◆◆ ..... ●
3　◆◆◆◆ ..... ●

第５章　計画の推進 ..... ●
1　◆◆◆◆ ..... ●
2　◆◆◆◆ ..... ●
3　◆◆◆◆ ..... ●

参考資料 ..... ●
1　◆◆◆◆ ..... ●
2　◆◆◆◆ ..... ●

# 第1章 計画の改定にあたって

## 1 計画の目的と見直しの背景

文化芸術は人々に楽しさや感動を与え、暮らしに潤いをもたらすとともに、豊かな人間性や創造力を育むものです。また、異なる文化的背景を持つ人と人とをつなぐ役割や、地域の魅力創出など、社会を活性化させる役割も担っています。

少子高齢化の進行、人口減少社会の到来、グローバル化や高度情報化の進展など、社会情勢が大きな転換期を迎えるなか、心のゆとりや潤いを実感できる暮らしや持続可能な地域づくりが求められており、文化芸術がもたらす活力への期待は一層高まっています。

また、2019 年（令和元年）末に発生した新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、先の見通せない閉塞感のなか、文化芸術は不要不急の娯楽ではなく、人々の心を支え、生きる力にもなりえる社会的な資産であることが再認識されました。

本市においては、2001 年（平成 13 年）３月に「かすがい市民文化振興ビジョン」を策定し、翌 2002 年（平成 14 年）７月には「春日井市文化振興基本条例」を制定しました。その後、2008 年（平成 20 年）３月には「かすがい市民文化振興ビジョン」を見直して「かすがい市民文化振興プラン」を策定し、文化で人と人、人とまち、そして未来・世界へとつながる“文化のまち春日井”の創造と発信を目指して文化振興施策を推進してきました。

また、2017 年（平成 29 年）３月には「文化・スポーツ都市」を宣言し、文化やスポーツの持つ力を改めて認識しつつ、市民、企業等、市が一体となって明るく心豊かで活力あるまちを目指すという決意を示しました。

現在は 2018 年（平成 30 年）に策定した「第２次かすがい市民文化振興プラン」（以下、「本プラン」といいます。）に基づき、文化を通して絆を深めるまち、すべての市民にとって暮らしやすいまちの実現に向けて、文化芸術を創造・継承していく担い手の不足、市民参加による文化活動支援の停滞など、社会情勢の変化とともに現れてきた課題の解決に取り組んでいます。

本プランは 2022 年度（令和４年度）が中間年度となることから、社会情勢や国・県の動向を踏まえたうえで、市民アンケートの結果やこれまでの取組の進捗状況から本市における課題を整理し、2023 年度（令和５年度）から 2027 年度（令和９年度）までの後期期間に向けて、計画の見直しを行うものです。

## 2　計画の位置づけ

本プランは、春日井市文化振興基本条例第８条で定めている、文化の振興に関する基本的な計画（基本計画）として策定するものです。

また、文化芸術基本法第７条の２に定められている、その地方の実情に即した文化芸術の推進に関する計画（地方文化芸術推進基本計画）として定めるものです。

行政計画としては、本市の最上位計画である「第六次春日井市総合計画」の個別計画として位置づけるとともに、同様に上位計画である「第２期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を始め、「春日井市生涯学習推進計画」等の関連計画との整合を図っています。

## 3　計画の期間

本プランの期間は、2018 年度（平成 30 年度）から 2027 年度（令和９年度）までの 10 年間であり、2018 年度（平成 30 年度）から 2022 年度（令和４年度）までを前期期間、2023 年度（令和５年度）から 2027 年度（令和９年度）を後期期間とします。

| | 2018（H30） | 2019（R 元） | 2020（R2） | 2021（R3） | 2022（R4） | 2023（R5） | 2024（R6） | 2025（R7） | 2026（R8） | 2027（R9） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第六次春日井市総合計画 | 前期基本計画 | | | | | 後期基本計画 | | | | |
| まち・ひと・しごと創生総合戦略 | 第１期 | | 第２期 | | | | | | | |
| 第２次春日井市生涯学習推進計画 | 前期計画 | | | | | 後期計画 | | | | |
| 第２次かすがい市民文化振興プラン | 前期計画 | | | | | 後期計画 | | | | |

## 4 計画の対象となる文化の範囲

本プランにおいて「文化」とは、文化芸術基本法に規定される芸術、メディア芸術、伝統芸能、芸能、生活文化等、文化財を主な範囲とします。

| 分野 | 例 |
|---|---|
| 芸術 | 文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術 |
| メディア芸術 | 映画、漫画、アニメーション、コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術 |
| 伝統芸能 | 雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他我が国古来の伝統的な芸能 |
| 芸能 | 講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能 |
| 生活文化、国民娯楽、出版物 | 生活文化（茶道、華道、書道※、食文化その他の生活に係る文化）、国民娯楽（囲碁、将棋その他の国民的娯楽）並びに出版物及びレコード等 |
| 文化財 | 有形・無形の文化財並びにその保存技術 |

※「書」については、美術の一環として捉える考え方と、「書道」として生活文化の一環として捉える考え方があります。春日井市では、古くから書を芸術として捉え取り組む市民が多いことから、「書」を芸術の一環として位置付けています。

# 第2章 現状と課題

## 1 社会的背景と文化振興の取組

### (1)社会的背景

#### ① 少子高齢化の進展

本市における 65 歳以上の高齢化率は、26.0%（2022 年（令和４年） ４月１日現在）で、４人に１人が高齢者となっており、2040 年（令和 22 年）には 31.6%となり３人に１人が高齢者となると推計されています。

また、本市では、年間 3,000 人以上の出生数を維持していましたが、2013 年（平成 25 年）には 3,000 人を下回り、2021 年（令和３年）には 2,334 人となり、少子化も進み、地域コミュニティの衰退と文化芸術の担い手不足が大きな課題となっています。

#### ② 価値観の多様化

少子高齢化や核家族化などが進み、社会構造が変化するなかで、人々の価値観やライフスタイルは多様化し、潤いのある生活など心の豊かさを重視する傾向は年々強まってきています。また、一人ひとりが多様な価値観に基づき自己実現を図るライフスタイルは、文化芸術に対するニーズの多様化にもつながっており、その変化への対応が求められています。

このような社会情勢の変化のなか、地域社会で育まれ守られてきた芸能や風習等の伝統文化の保存・継承が必要になってきています。また、文化芸術の担い手の高齢化も進んでおり、新たな担い手の確保・育成が課題となっています。

#### ③ 高度情報化の進展

情報通信技術の進歩に伴うパソコンやスマートフォン等の急速な普及により、必要な情報を容易に入手することができるようになり、日常生活を始め経済、教育等あらゆる分野で活用されています。

文化芸術の分野では、先進的な情報通信技術を活用した表現が注目されており、文化情報の発信においても大きな可能性を秘めているため、今後の更なる情報通信技術の発展も視野に入れ、情報化への対応を強化していくことが必要になっています。

④ SDGs の推進

2015 年（平成 27 年） 9 月の国連サミットにおいて、SDGs（持続可能な開発目標）が採択され、わが国は 2016 年（平成 28 年）に「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」を策定し、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進しています。また、2019 年（令和元年） 12 月には同方針の改定が行われています。

SDGs の目標 11「住み続けられるまちづくりを」では、「世界の文化遺産および自然遺産の保全・開発制限の取り組みを強化する」ことが掲げられています。また、文化芸術の推進は、心豊かで質の高い生活の実現に資するもので、最終的には SDGs で掲げている様々な目標の達成につながっています。

SDGs ロゴマークを加えます

⑤ 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症への対策が求められ、全国的にイベント等の中止や延期、無観客開催、施設の休業や利用制限等により、文化芸術の鑑賞・活動の機会が減少しています。

「新しい生活様式」に対応した文化芸術活動への支援が求められており、今後どのような取組を推進していくのかが重要となります。

## （2）国・県における文化振興の取組

① 国の動向

国においては、2001 年（平成 13 年）に文化芸術の振興に関する基本理念や方向性を定めた「文化芸術振興基本法」が施行されました。2017 年（平成 29 年）には同法律の一部が改正され、「文化芸術基本法」に改められました。この法律では、文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込むこと、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用することが定められています。その後、「文化芸術基本法」の規定に基づき、文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、2018 年（平成 30 年）には「文化芸術推進基本計画－文化芸術の「多様な価値」を活かして 未来をつくる－ （第 1 期） 」が策定されました。この計画では、今後の文化芸術政策の目指すべき姿や、2022 年度（令和 4 年度）までの今後 5 年間の文化芸術政策の基本的な方向性が示されています。

そのほかの法整備としては、2012 年（平成 24 年）に「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」が施行されるとともに、2013 年（平成 25 年）には「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」が告示され、文化芸術を継承、創造、発信する場であり、人々の創造性を育み、人々の絆を形成するための地域の文化拠点である劇場、音楽堂等について、設置者

又は運営者、実演芸術に関する活動を行う団体及び芸術家、国、地方公共団体等の役割や、基本的施策等が明確化されました。

2018 年（平成 30 年）には「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行されており、障がいの有無にかかわらず、文化芸術を鑑賞・参加・創造することができるよう、障がい者による文化芸術活動の推進に関しての基本理念等が定められています。

おなじく 2018 年（平成 30 年）には、国際文化交流の振興を図る上で我が国が国際文化交流の場を提供することが重要であることに鑑み、「国際文化交流の祭典の実施の推進に関する法律」も施行されています。

2020 年（令和２年）には「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」が施行され、文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光を推進するための措置等について定められています。

2021 年（令和３年）には「文化財保護法」（1950 年（昭和 25 年）施行）が改正され、これまで指定の対象とならなかった多様な無形文化財の積極的な保護を図るための登録制度が創設されており、登録された無形文化財の保存・公開に関する指導助言やそれらに要する経費の補助、保存活用計画の認定等について定められています。

2022 年（令和４年）には、博物館に求められる役割が多様化・高度化していることを踏まえ、「博物館法」が改正されました（2023 年（令和５年） ４月１日施行）。この改正により、博物館の事業の見直しや博物館登録制度の見直しなどが図られています。

② 県の動向

愛知県においては、2007 年（平成 19 年）に「文化芸術創造あいちづくり推進方針」が策定され、2012 年（平成 24 年）には、この方針の重点方向を強化・充実し、新しい発想の政策によって集中的・優先的に行う具体的取組として「あいち地域文化創造戦略」が策定されました。この戦略は、愛知の文化力を向上させ、地域の魅力づくりと活性化につなげ、心豊かな地域社会を実現することを目的としています。

また、2013 年（平成 25 年）には、文化芸術創造あいちづくり推進方針の改定版が策定されました。この改定版では、「世界・未来への貢献」「連携・協働の推進」「地域社会の形成」を基本的視点とし、国際芸術祭の継続開催、愛知芸術文化センターの運営手法の見直し等が盛り込まれ、文化芸術を担い支える人づくり、多様な個性・価値を実現する場づくり、地域文化を発掘・継承・発展する仕組みづくり等の取組の方向性が示されました。

2018 年（平成 30 年）には、文化芸術の振興を通じた心豊かな県民生活と活力ある社会の実現を目的に、「愛知県文化芸術振興条例」が施行されています。また、この条例に基づき、文化芸術の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画として「あいち文化芸術振興計画 2022」が策定されています。

# 2 春日井市の現状

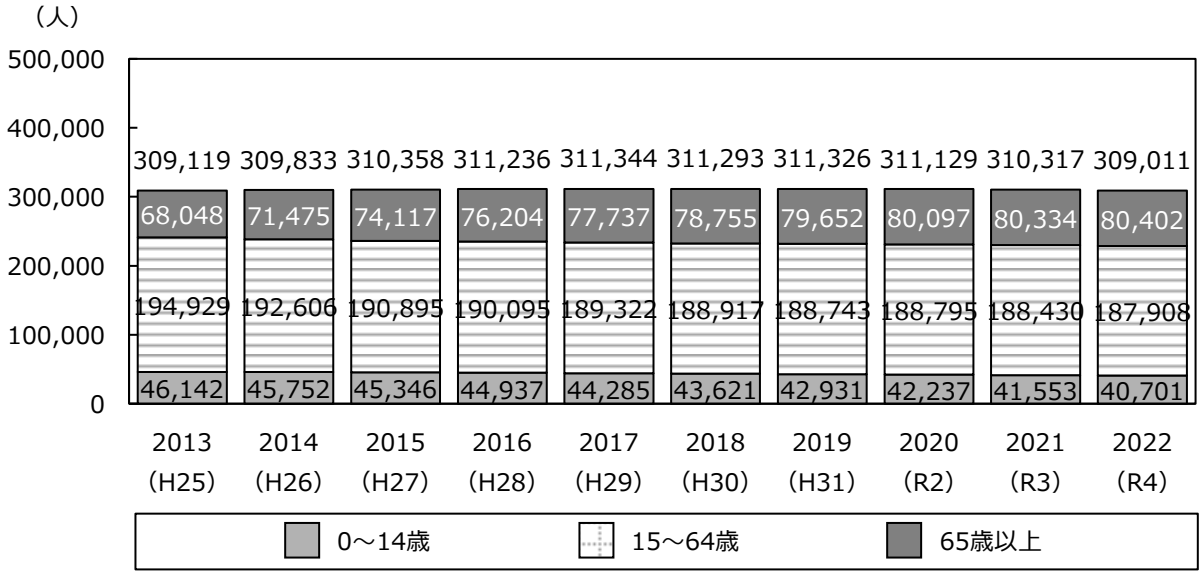
## (1)市の特徴

### ① 人口・世帯

本市のこの 10 年間の総人口の推移をみると、2017 年（平成 29 年）までは増加傾向にありましたが、2018 年（平成 30 年）、2019 年（令和元年）は横ばいで、2020 年（令和２年）以降は緩やかな減少傾向となっています。

2022 年（令和４年）の総人口は 309,011 人となっていますが、2021 年（令和３年）からは 1,306 人減少し、ピークであった 2017 年（平成 29 年）からは 2,333 人減少しています。

■ 年齢3区分別人口の推移

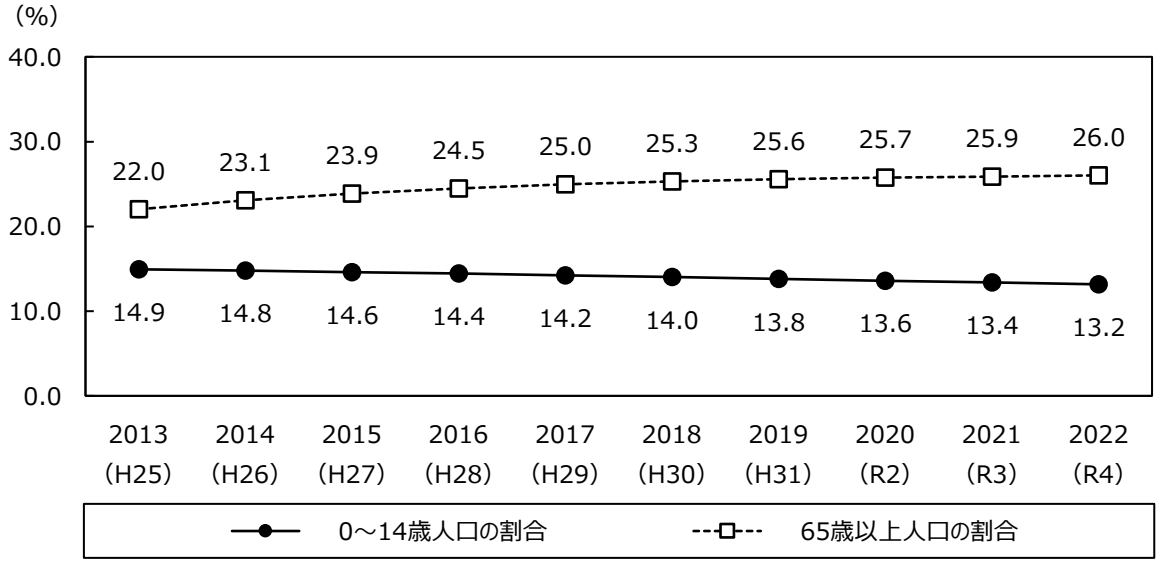



資料：住民基本台帳（各年４月１日）

0～14 歳人口の割合は年々低下しているのに対し、65 歳以上人口の割合は上昇し、2022 年（令和４年）では 26.0%となっています。全国の 65 歳以上人口の割合は 2021 年（令和３年）で 28.2%となっており（令和３年１月１日住民基本台帳に基づく人口）、全国と比較すると低い値で推移しています。

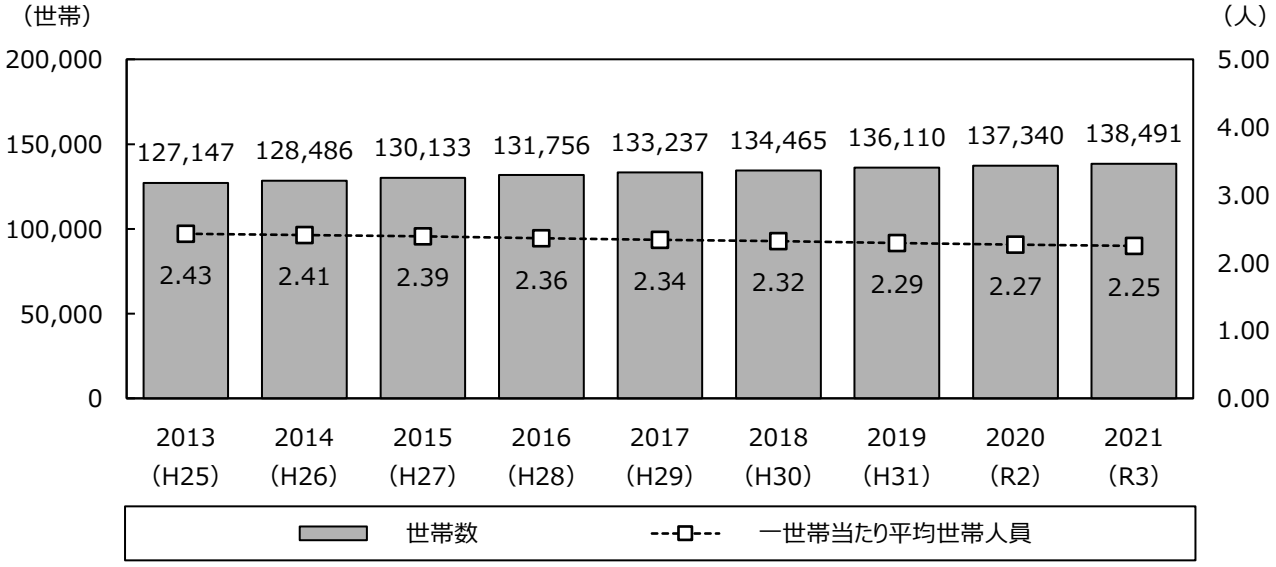
世帯数については年々増加していますが、一世帯当たり平均世帯人員は減少しており、世帯の小規模化が進んでいます。

■ 少子高齢化率の推移




資料：住民基本台帳（各年４月１日）

■ 世帯数と一世帯当たり平均世帯人員の推移




資料：住民基本台帳（各年１月１日）

② 地理的環境

本市は、中部圏最大の都市の名古屋市に隣接し、鉄道・道路・空港などの利便性の高い交通網と快適な都市基盤を備えるほか、豊かな自然に恵まれたまちであり、名古屋圏を代表する住宅都市として発展してきました。

岐阜県との県境には弥勒山や道樹山を中心とした 400 メートル前後の山地が連なり、東海自然歩道の春日井コースとなっています。「日本の都市公園 100 選」に選ばれた落合公園のほか、花と緑あふれる「都市緑化植物園」などもあり、豊かな自然に恵まれています。

春日井市の地図を加えます

③ 歴史・文化

本市の歴史は古く、旧石器時代から近世まで 200 箇所を超える遺跡の所在が確認されています。なかでも味美二子山古墳は 90 メートルを超える前方後円墳で、国史跡に指定されています。

現在も、市内には重要文化財の多宝塔など数多くの文化財を有する密蔵院（熊野町）や日本武尊（やまとたけるのみこと）の伝説が残る内々（うつつ）神社（内津町）など、春日井の歴史を物語る文化財が数多く残されています。

また、平安時代の三跡のひとり、小野道風は、春日井で生まれたと言い伝えられており、本市では「書のまち春日井」をキャッチフレーズに、道風記念館の事業、全国公募の書道展である道風展の開催など、独自の特色ある文化として書道文化の振興に力を入れています。

④ 文化芸術施設

市役所の南隣りに建つ春日井市民会館は、客席数 1,000 席を超える大ホールを持っています。1966 年（昭和 41 年）の開館以来、市の文化の拠点施設としてコンサートや演劇、講演会や市民発表会などのイベントや、式典や大規模な会議にも活用されています。また、同じ敷地にある文化フォーラム春日井は、1999 年（平成 11 年）に開館した複合文化施設です。この両施設は、市の文化振興の拠点施設として、かすがい市民文化財団（以下、「文化財団」といいます。）により事業運営がされています。

また、2020 年度（令和 2 年度）には東部市民センター・ホールの大規模改修を行うとともに、新たなピアノを導入するなど設備の充実を図っており、市の東部地域の文化芸術の拠点施設として活用されています。

各施設の開館年数・ホール席数等を一覧表で示し、写真や施設の位置図を加えます

## （2）市民アンケート結果からみる状況

※図表中の n は回答者数を示しています。また、集計表については割合が高いものに網掛けをしており、色が濃いほど割合が高くなっています（その他、無回答を除く）。

### ① この1年間の文化芸術鑑賞の状況

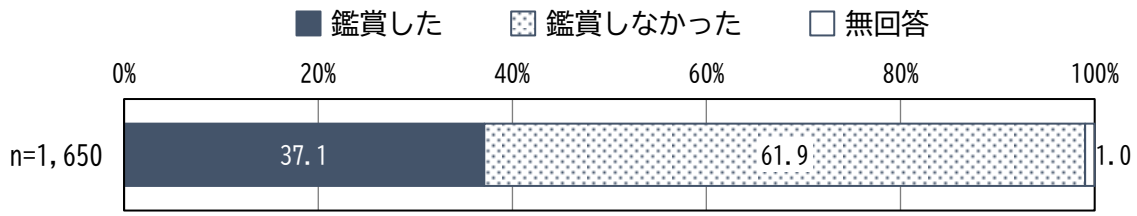
#### ■ 文化芸術鑑賞（コンサートや展覧会、映画など）の有無

オンライン以外での文化芸術鑑賞の有無について、全体の結果をみると、「鑑賞した」が37.1%、「鑑賞しなかった」が 61.9%となっています。

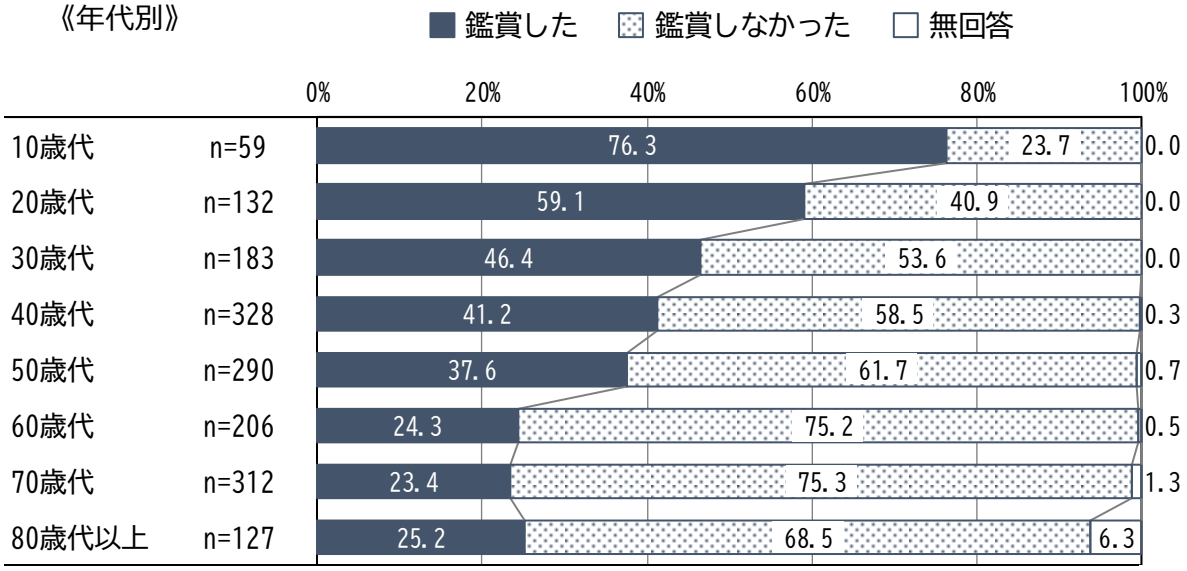
「鑑賞した」の割合を年代別でみると、年代が上がるほど概ね低くなる傾向にあり、30 歳代以上では「鑑賞しなかった」の割合の方が高くなっています。

【オンライン以外での文化芸術鑑賞の有無】

《全体》




《年代別》

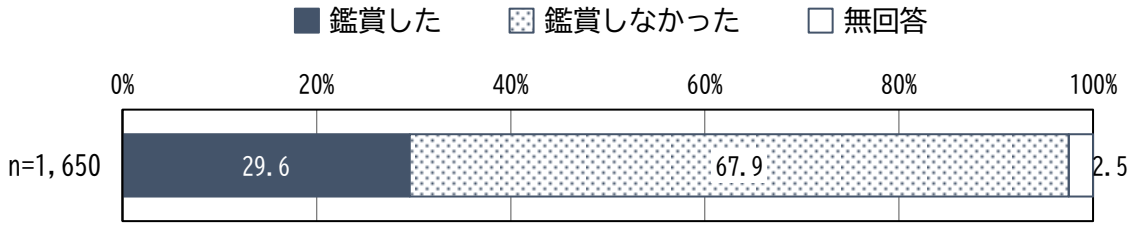


オンラインでの文化芸術鑑賞の有無について、全体の結果をみると、「鑑賞した」が 29.6%、「鑑賞しなかった」が 67.9%となっています。また、「鑑賞した」の割合はオンライン以外での割合よりも低くなっています（オンライン以外：37.1%）。

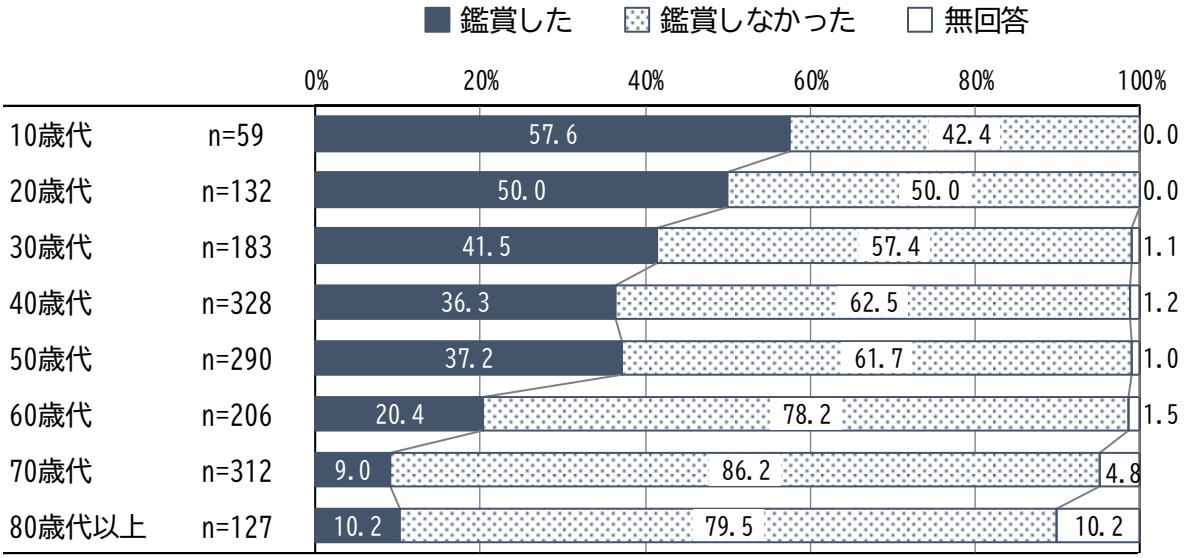
「鑑賞した」の割合を年代別でみると、オンライン以外と同様に年代が上がるほど概ね低くなる傾向にあり、30 歳代以上では「鑑賞しなかった」の割合の方が高くなっています。また、ほとんどの年代において、「鑑賞した」の割合はオンライン以外の方が高くなっていますが、50 歳代ではオンラインとオンライン以外がほぼ同率となっています。

【オンラインでの文化芸術鑑賞の有無】

《全体》




《年代別》

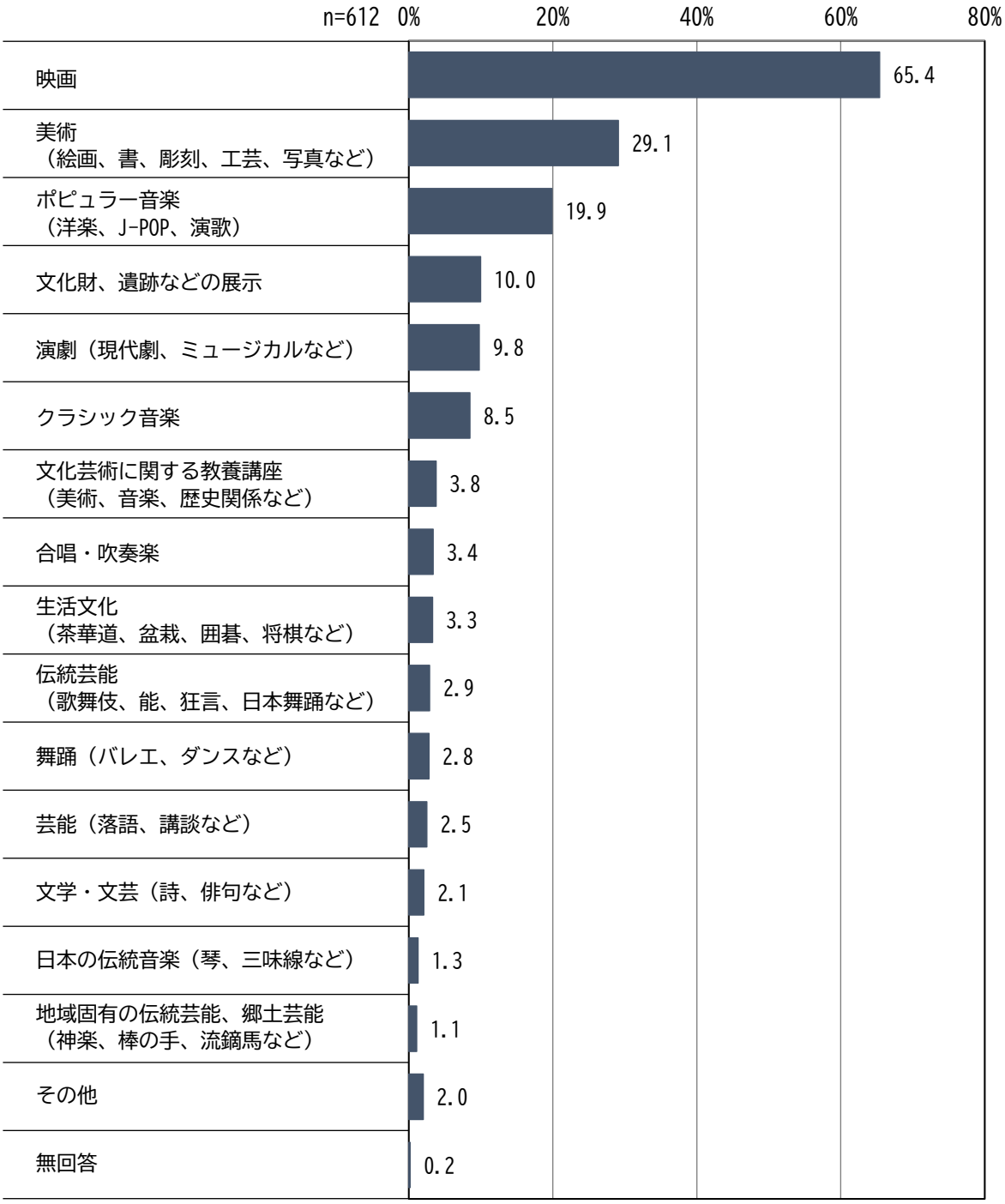


## ■ 文化芸術鑑賞の内容

オンライン以外で鑑賞したものついて、全体の結果をみると、「映画」（65.4%）、「美術（絵画、書、彫刻、工芸、写真など）」（29.1%）、「ポピュラー音楽（洋楽、J-POP、演歌）」（19.9%）の順で割合が高くなっています。

【オンライン以外で鑑賞したもの】

《全体》



オンライン以外で鑑賞したものついて、年代別の結果をみると、10 歳代から 60 歳代では「映画」の割合が最も高くなっているのに対し、70 歳代以上では「美術（絵画、書、彫刻、工芸、写真など）」の割合が最も高くなっています。

《年代別》

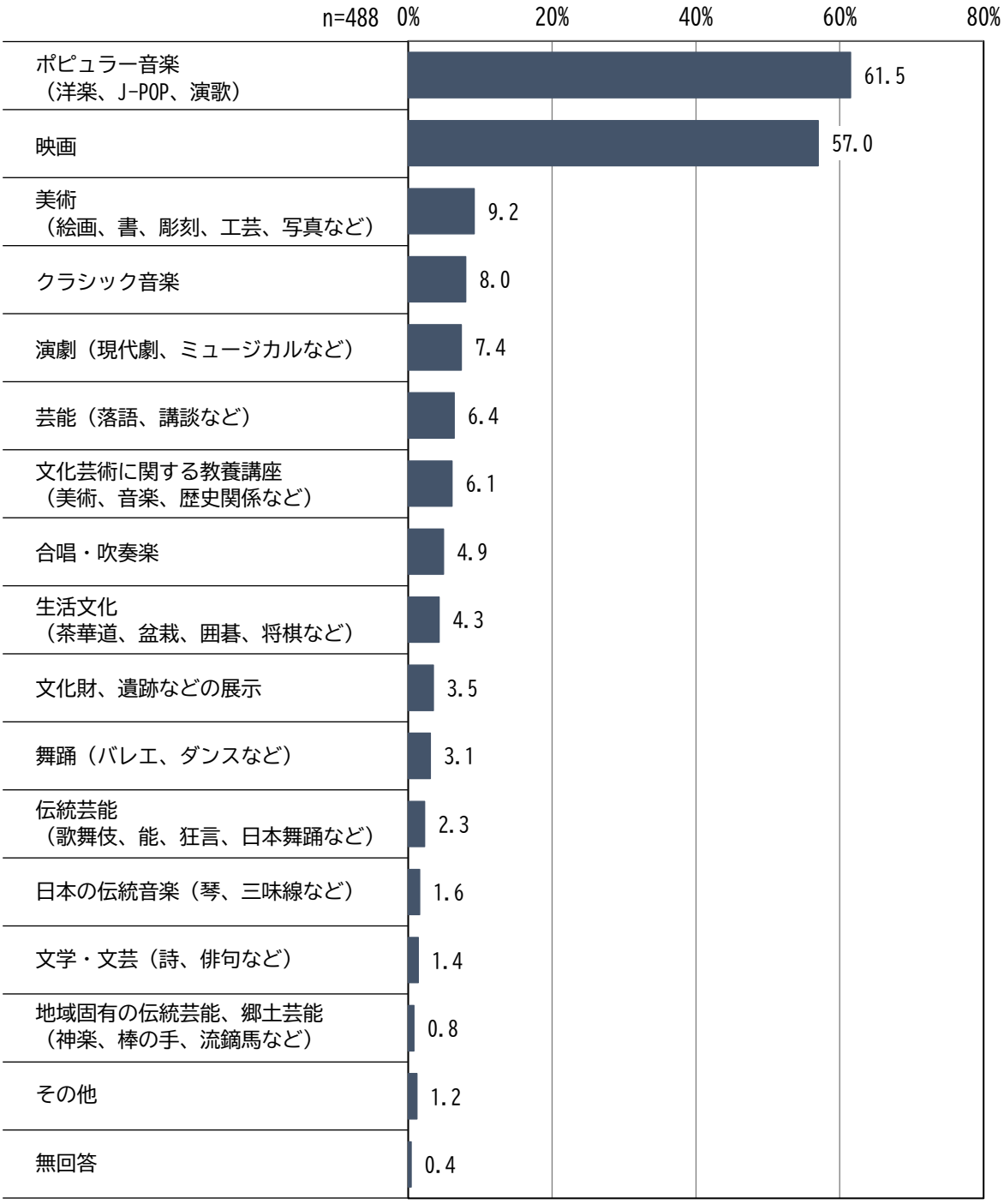
（%）

| | 映画 | 美術（絵画、書、彫刻、工芸、写真など） | ポピュラー音楽（洋楽、J―POP、演歌） | 文化財、遺跡などの展示 | 演劇（現代劇、ミュージカルなど） | クラシック音楽 | 文化芸術に関する教養講座（美術、音楽、歴史関係など） | 合唱・吹奏楽 | 生活文化（茶華道、盆栽、囲碁、将棋など） | 伝統芸能（歌舞伎、能、狂言、日本舞踊など） | 舞踊（バレエ、ダンスなど） | 芸能（落語、講談など） | 文学・文芸（詩、俳句など） | 日本の伝統音楽（琴、三味線など） | 地域固有の伝統芸能、郷土芸能（神楽、棒の手、流鏑馬など） | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=45） | 82.2 | 15.6 | 26.7 | 4.4 | 8.9 | 2.2 | － | 2.2 | － | － | 4.4 | 2.2 | 2.2 | － | 2.2 | 2.2 | － |
| 20歳代（n=78） | 83.3 | 23.1 | 21.8 | 6.4 | 15.4 | 2.6 | 1.3 | 1.3 | － | － | 1.3 | 3.8 | 1.3 | － | 1.3 | － | － |
| 30歳代（n=85） | 74.1 | 21.2 | 17.6 | 10.6 | 8.2 | 7.1 | 2.4 | 1.2 | 1.2 | 1.2 | 2.4 | － | 2.4 | 1.2 | 1.2 | 3.5 | － |
| 40歳代（n=135） | 71.9 | 23.0 | 23.7 | 9.6 | 8.9 | 5.2 | 2.2 | 2.2 | 1.5 | － | 2.2 | 0.7 | 2.2 | － | 0.7 | 1.5 | 0.7 |
| 50歳代（n=109） | 74.3 | 28.4 | 20.2 | 6.4 | 10.1 | 11.9 | 4.6 | 2.8 | 1.8 | 2.8 | 0.9 | 1.8 | － | － | － | 0.9 | － |
| 60歳代（n=50） | 48.0 | 38.0 | 12.0 | 20.0 | 6.0 | 8.0 | 4.0 | 4.0 | － | 4.0 | 4.0 | 4.0 | 2.0 | － | － | － | － |
| 70歳代（n=73） | 30.1 | 49.3 | 16.4 | 13.7 | 13.7 | 17.8 | 9.6 | 11.0 | 9.6 | 11.0 | 5.5 | 6.8 | 4.1 | 5.5 | 1.4 | 2.7 | － |
| 80歳代以上（n=32） | 18.8 | 50.0 | 18.8 | 15.6 | 3.1 | 18.8 | 9.4 | 6.3 | 25.0 | 12.5 | 6.3 | 3.1 | 6.3 | 9.4 | 6.3 | 9.4 | － |

オンラインで鑑賞したものついて、全体の結果をみると、「ポピュラー音楽（洋楽、J-POP、演歌）」、「映画」（57.0%）の順で割合が高く、それ以外については 10%未満となっています。

【オンラインで鑑賞したもの】

《全体》



オンライン以外で鑑賞したものついて、年代別の結果をみると、10 歳代から 40 歳代では「ポピュラー音楽（洋楽、J-POP、演歌）」、50 歳代、60 歳代では「映画」、70 歳代では「美術（絵画、書、彫刻、工芸、写真など）」の割合が最も高くなっています。80 歳代以上では「映画」と「美術（絵画、書、彫刻、工芸、写真など）」が同率で最も高くなっています。

《年代別》

（%）

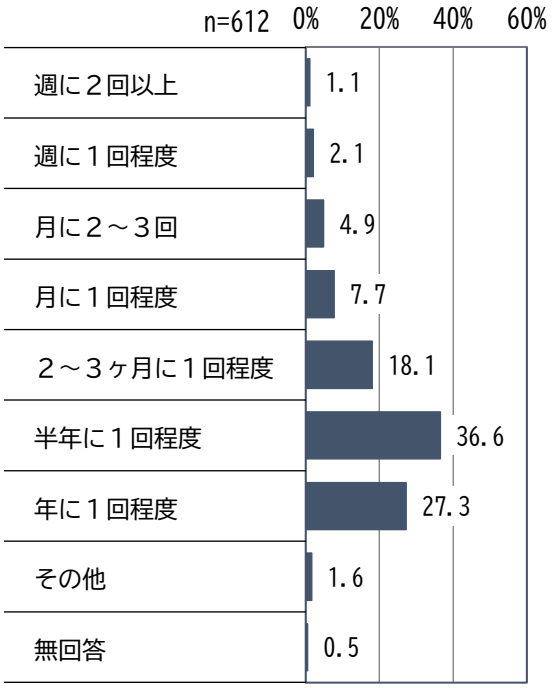
| | ポピュラー音楽（洋楽、J―POP、演歌） | 映画 | 美術（絵画、書、彫刻、工芸、写真など） | クラシック音楽 | 演劇（現代劇、ミュージカルなど） | 芸能（落語、講談など） | 文化芸術に関する教養講座（美術、音楽、歴史関係など） | 合唱・吹奏楽 | 生活文化（茶華道、盆栽、囲碁、将棋など） | 文化財、遺跡などの展示 | 舞踊（バレエ、ダンスなど） | 伝統芸能（歌舞伎、能、狂言、日本舞踊など） | 日本の伝統音楽（琴、三味線など） | 文学・文芸（詩、俳句など） | 地域固有の伝統芸能、郷土芸能（神楽、棒の手、流鏑馬など） | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=34） | 67.6 | 50.0 | 2.9 | 2.9 | 8.8 | 5.9 | － | 5.9 | － | － | 2.9 | － | － | － | － | － | － |
| 20歳代（n=66） | 74.2 | 50.0 | 9.1 | 4.5 | 9.1 | 4.5 | 3.0 | 1.5 | 3.0 | － | 4.5 | － | － | － | － | 1.5 | － |
| 30歳代（n=76） | 64.5 | 64.5 | 2.6 | 3.9 | 6.6 | 6.6 | 2.6 | 2.6 | 1.3 | 3.9 | 1.3 | 1.3 | 3.9 | 2.6 | － | － | － |
| 40歳代（n=119） | 69.7 | 52.9 | 5.9 | 5.0 | 8.4 | 6.7 | 5.0 | 5.0 | 5.9 | 2.5 | 3.4 | 2.5 | 0.8 | － | 0.8 | 1.7 | － |
| 50歳代（n=108） | 62.0 | 66.7 | 7.4 | 10.2 | 3.7 | 4.6 | 4.6 | 7.4 | 1.9 | 2.8 | 0.9 | － | 1.9 | － | 0.9 | 1.9 | － |
| 60歳代（n=42） | 45.2 | 66.7 | 14.3 | 11.9 | 9.5 | 4.8 | 16.7 | 2.4 | 2.4 | 7.1 | 2.4 | 2.4 | － | 4.8 | － | 2.4 | － |
| 70歳代（n=28） | 21.4 | 32.1 | 35.7 | 25.0 | 10.7 | 17.9 | 21.4 | 10.7 | 17.9 | 10.7 | 10.7 | 17.9 | 7.1 | 7.1 | 3.6 | － | 3.6 |
| 80歳代以上（n=13） | 15.4 | 38.5 | 38.5 | 23.1 | 7.7 | 7.7 | 15.4 | 7.7 | 23.1 | 15.4 | 7.7 | 7.7 | － | 7.7 | 7.7 | － | 7.7 |

## ■ 文化芸術鑑賞の頻度

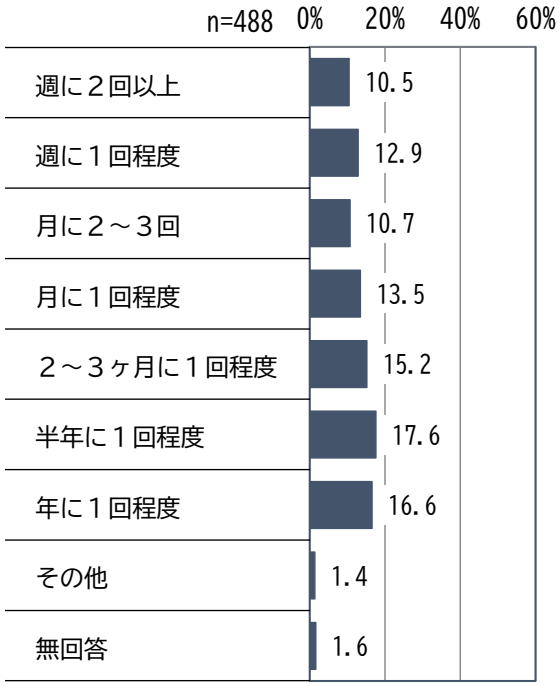
文化芸術鑑賞の頻度について、全体の結果をみると、オンライン以外では「半年に１回程度」が最も高く、36.6%となっています。オンラインではいずれの区分も 10%台となっており、オンライン以外と比べると頻度が高い傾向にあります。

【オンライン以外での鑑賞頻度】

《全体》




【オンラインでの鑑賞頻度】

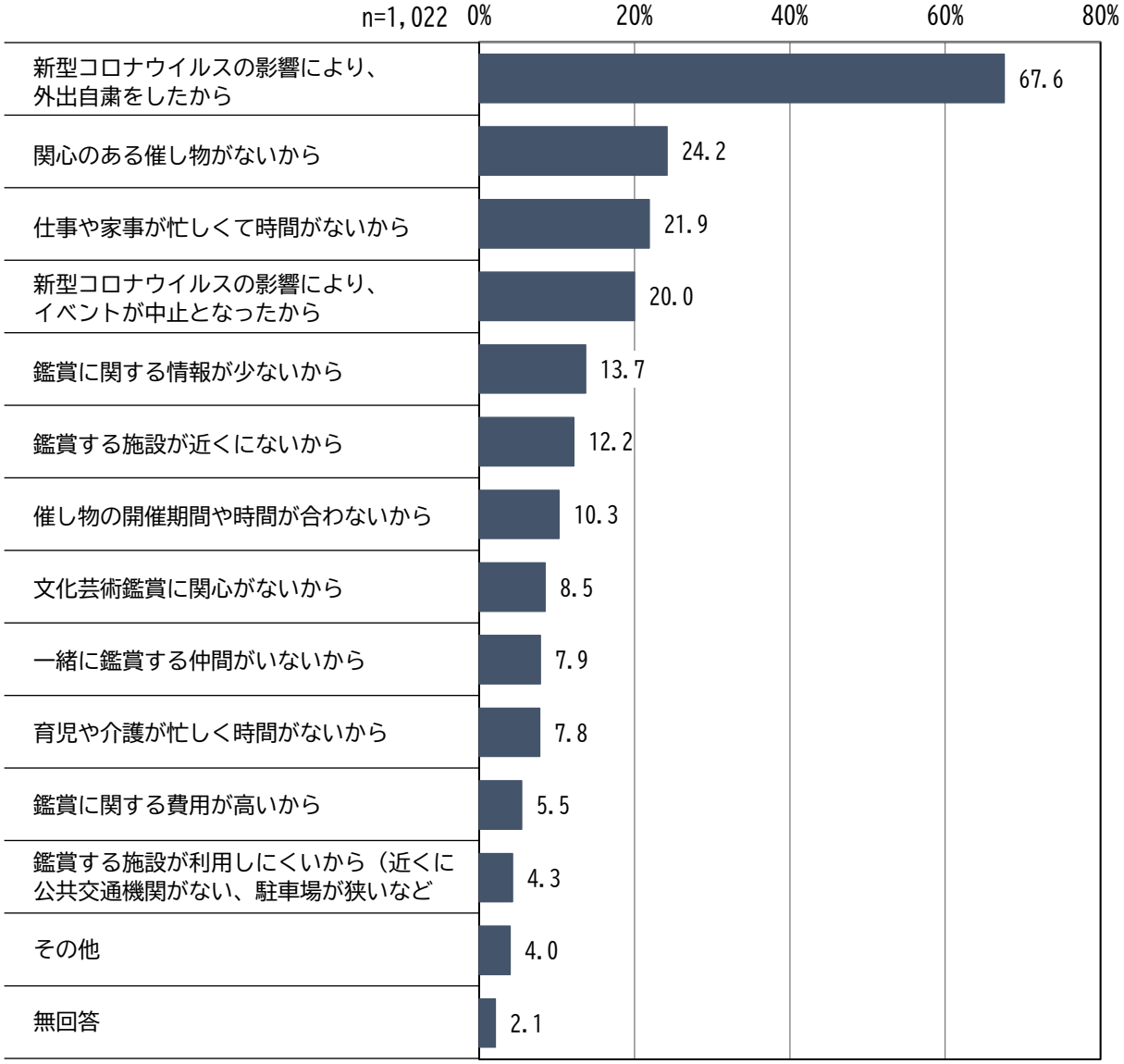


## ■ 文化芸術鑑賞をしなかった理由

オンライン以外で文化芸術鑑賞をしなかった理由について、全体の結果をみると、「新型コロナウイルスの影響により、外出自粛をしたから」（67.6%）の割合が最も高く、約 70%となっています。次いで、「関心のある催し物がないから」（24.2%）、「仕事や家事が忙しくて時間がないから」（21.9%）の順で割合が高くなっています。

【オンライン以外で鑑賞しなかった理由】

《全体》



オンライン以外で文化芸術鑑賞をしなかった理由について、年代別の結果をみると、いずれの年代においても「新型コロナウイルスの影響により、外出自粛をしたから」の割合が最も高くなっています。それ以外については、10 歳代では「催し物の開催期間や時間が合わないから」、20 歳代と 60 歳代以上では「関心のある催し物がないから」、30 歳代から 50 歳代では「仕事や家事が忙しくて時間がないから」の割合が高くなっています。

《年代別》

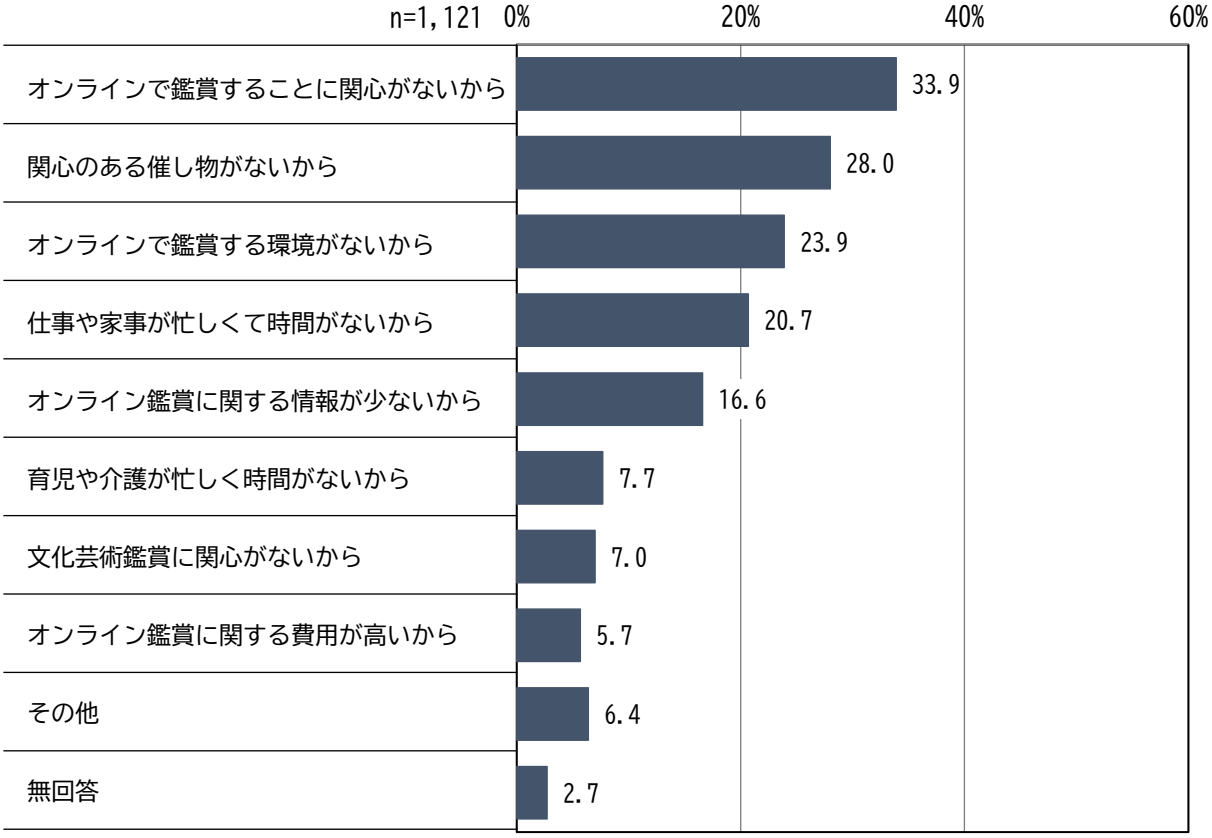
（%）

| | 新型コロナウイルスの影響により、外出自粛をしたから | 関心のある催し物がないから | 仕事や家事が忙しくて時間がないから | 新型コロナウイルスの影響により、イベントが中止となったから | 鑑賞に関する情報が少ないから | 鑑賞する施設が近くにないから | 催し物の開催期間や時間が合わないから | 文化芸術鑑賞に関心がないから | 一緒に鑑賞する仲間がいないから | 育児や介護が忙しく時間がないから | 鑑賞に関する費用が高いから | 鑑賞する施設が利用しにくいから（近くに公共交通機関がない、駐車場が狭いなど） | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=14） | 71.4 | 35.7 | 7.1 | 28.6 | 21.4 | 21.4 | 42.9 | 14.3 | 14.3 | － | 14.3 | － | 14.3 | － |
| 20歳代（n=54） | 66.7 | 38.9 | 24.1 | 22.2 | 16.7 | 13.0 | 5.6 | 3.7 | 11.1 | 13.0 | 3.7 | 3.7 | － | － |
| 30歳代（n=98） | 75.5 | 24.5 | 31.6 | 22.4 | 8.2 | 7.1 | 5.1 | 4.1 | 3.1 | 30.6 | 4.1 | 2.0 | 2.0 | 2.0 |
| 40歳代（n=192） | 74.5 | 16.7 | 32.3 | 16.7 | 12.0 | 9.4 | 9.4 | 6.8 | 4.7 | 7.3 | 7.3 | 2.1 | 2.6 | 1.6 |
| 50歳代（n=179） | 70.9 | 24.6 | 29.1 | 26.3 | 14.0 | 6.1 | 12.8 | 5.0 | 5.6 | 5.0 | 4.5 | 2.8 | 2.8 | － |
| 60歳代（n=155） | 72.3 | 25.2 | 19.4 | 23.9 | 14.8 | 9.0 | 15.5 | 5.8 | 10.3 | 5.2 | 5.2 | 3.9 | 0.6 | 1.3 |
| 70歳代（n=235） | 61.7 | 25.1 | 13.2 | 14.9 | 14.5 | 20.9 | 8.1 | 14.5 | 8.9 | 3.8 | 5.5 | 8.5 | 6.8 | 5.1 |
| 80歳代以上（n=87） | 43.7 | 23.0 | 4.6 | 16.1 | 16.1 | 18.4 | 8.0 | 14.9 | 16.1 | 3.4 | 5.7 | 5.7 | 11.5 | 2.3 |

オンラインで文化芸術鑑賞をしなかった理由について、全体の結果をみると、「オンラインで鑑賞することに関心がないから」（33.9%）、「関心のある催し物がないから」（28.0%）、「オンラインで鑑賞する環境がないから」（23.9%）の順で割合が高くなっています。

【オンラインで鑑賞しなかった理由】

《全体》



オンラインで文化芸術鑑賞をしなかった理由について、年代別の結果をみると、10 歳代、20 歳代では「関心のある催し物がないから」、30 歳代では「仕事や家事が忙しくて時間がないから」、40 歳代から 60 歳代では「オンラインで鑑賞することに関心がないから」、70 歳代以上では「オンラインで鑑賞する環境がないから」の割合が最も高くなっています。

《年代別》

（%）

| | オンラインで鑑賞することに関心がないから | 関心のある催し物がないから | オンラインで鑑賞する環境がないから | 仕事や家事が忙しくて時間がないから | オンライン鑑賞に関する情報が少ないから | 育児や介護が忙しく時間がないから | 文化芸術鑑賞に関心がないから | オンライン鑑賞に関する費用が高いから | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=25） | 28.0 | 52.0 | 8.0 | 12.0 | 36.0 | － | 8.0 | 12.0 | 8.0 | － |
| 20歳代（n=66） | 30.3 | 45.5 | 3.0 | 24.2 | 18.2 | 9.1 | 3.0 | 10.6 | 3.0 | － |
| 30歳代（n=105） | 33.3 | 28.6 | 3.8 | 40.0 | 16.2 | 33.3 | 3.8 | 6.7 | 2.9 | 2.9 |
| 40歳代（n=205） | 38.5 | 28.3 | 6.3 | 35.1 | 21.5 | 8.8 | 4.9 | 3.9 | 2.9 | 0.5 |
| 50歳代（n=179） | 35.8 | 33.5 | 20.7 | 22.3 | 15.6 | 4.5 | 2.8 | 7.3 | 7.3 | 0.6 |
| 60歳代（n=161） | 39.8 | 23.6 | 28.6 | 21.1 | 18.6 | 5.6 | 5.6 | 8.1 | 5.6 | 2.5 |
| 70歳代（n=269） | 32.7 | 22.3 | 42.0 | 7.8 | 13.0 | 2.6 | 10.8 | 4.1 | 9.3 | 5.2 |
| 80歳代以上（n=101） | 18.8 | 22.8 | 48.5 | 4.0 | 8.9 | 3.0 | 16.8 | 2.0 | 10.9 | 6.9 |

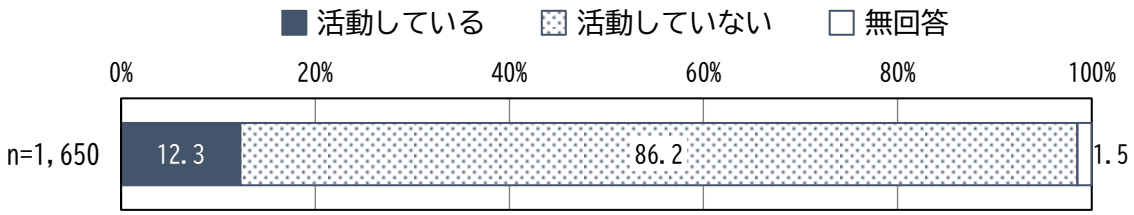
## ② 文化芸術活動の状況

### ■ この1年間の文化芸術活動の有無

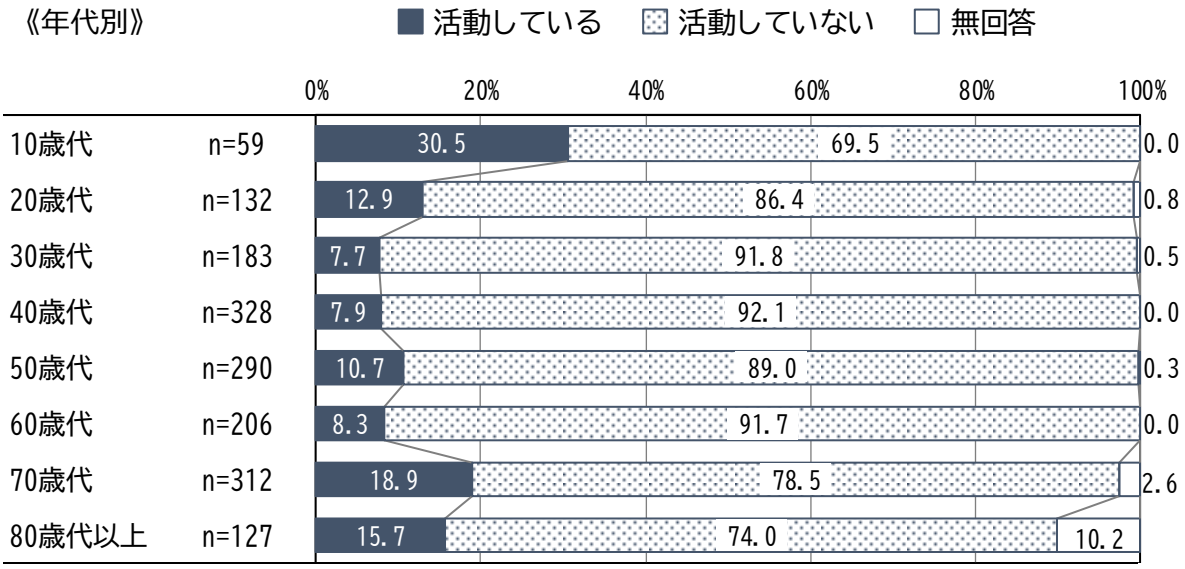
文化芸術活動について、全体の結果をみると、「活動している」が 12.3%、「活動していない」が 86.2%となっています。

年代別の結果をみると、いずれの年代も「活動していない」の割合の方が高くなっていますが、「活動している」の割合は 10 歳代で最も高く、30.5%となっています。次いで割合が高いのは 70 歳代で 18.9%となっています。一方、30 歳代から 60 歳代は 10%前後と割合が低い傾向にあります。

《全体》



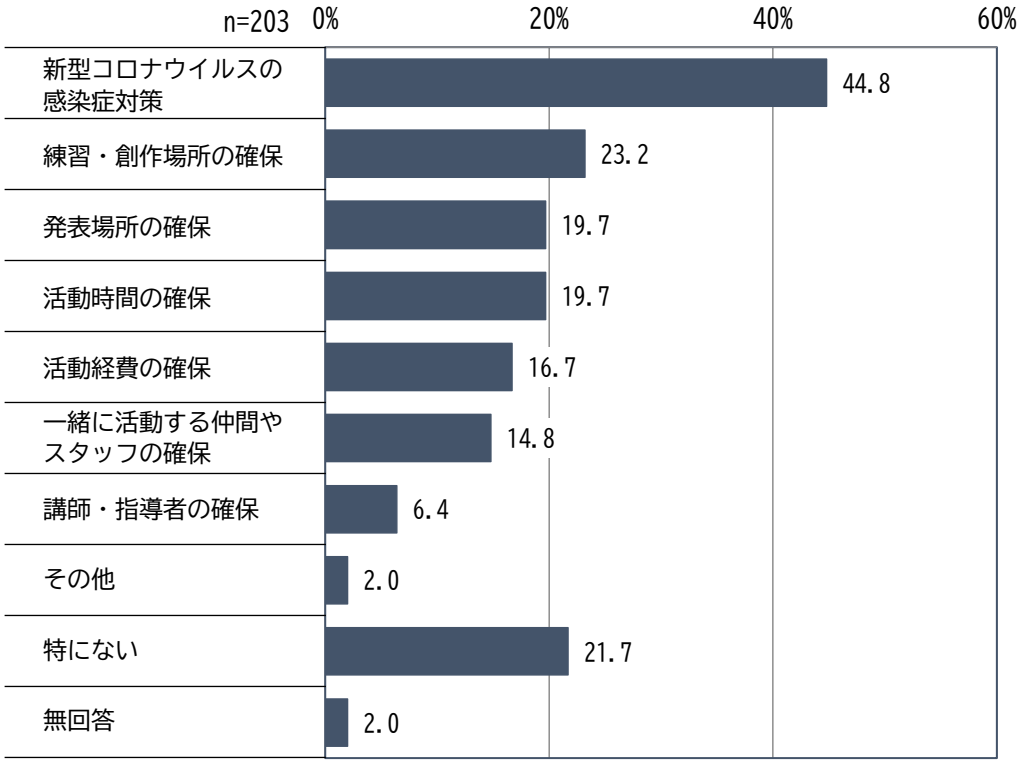

《年代別》



## ■ 文化芸術活動をするうえで負担となること

文化芸術活動をするうえで負担となることについて、全体の結果をみると、「新型コロナウイルスの感染症対策」の割合（44.8%）が最も高く、40%以上となっています。次いで、「練習・創作場所の確保」（23.2%）、「発表場所の確保」「活動時間の確保」（19.7%）の順で割合が高くなっています。また、「特にない」の割合も比較的高く、21.7%となっています。

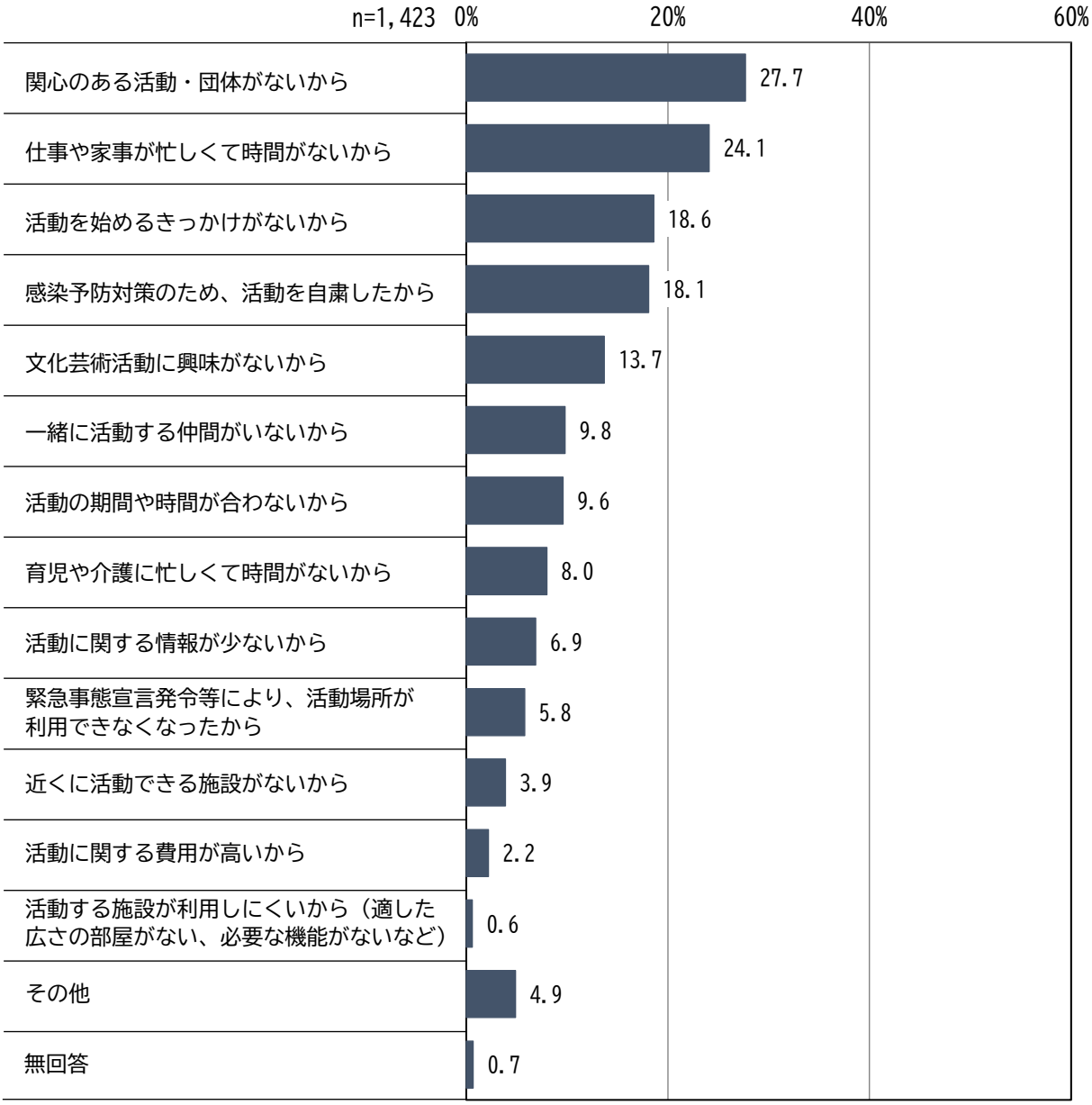
《全体》



## ■ 文化芸術活動をしなかった理由

文化芸術活動をしなかった理由について、全体の結果をみると、「関心のある活動・団体がないから」（27.7%）、「仕事や家事が忙しくて時間がないから」（24.1%）、「活動を始めるきっかけがないから」（18.6%）の順で割合が高くなっています。

《全体》



文化芸術活動をしなかった理由について、年代別の結果をみると、10 歳代、20 歳代、60 歳代では「関心のある活動・団体がないから」、30 歳代から 50 歳代では「仕事や家事が忙しくて時間がないから」、70 歳代では「感染予防対策のため、活動を自粛したから」、80 歳以上では「一緒に活動する仲間がいないから」の割合が最も高くなっています。

《年代別》

（%）

| | 関心のある活動・団体がないから | 仕事や家事が忙しくて時間がないから | 活動を始めるきっかけがないから | 感染予防対策のため、活動を自粛したから | 文化芸術活動に興味がないから | 一緒に活動する仲間がいないから | 活動の期間や時間が合わないから | 育児や介護に忙しくて時間がないから | 活動に関する情報が少ないから | 緊急事態宣言発令等により、活動場所が利用できなくなったから | 近くに活動できる施設がないから | 活動に関する費用が高いから | 活動する施設が利用しにくいから（適した広さの部屋がない、必要な機能がないなど） | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=41） | 43.9 | 9.8 | 22.0 | 4.9 | 14.6 | 7.3 | 12.2 | － | 7.3 | 2.4 | 7.3 | 2.4 | － | 4.9 | － |
| 20歳代（n=114） | 35.1 | 23.7 | 21.1 | 8.8 | 11.4 | 17.5 | 14.0 | 7.9 | 2.6 | 3.5 | 2.6 | 1.8 | 0.9 | 0.9 | － |
| 30歳代（n=168） | 31.0 | 32.1 | 20.2 | 7.7 | 14.3 | 4.8 | 5.4 | 25.0 | 5.4 | 3.6 | 2.4 | 1.8 | － | 1.8 | － |
| 40歳代（n=302） | 29.1 | 32.8 | 16.2 | 17.2 | 13.6 | 6.3 | 12.6 | 10.6 | 5.0 | 3.3 | 3.0 | 2.0 | 0.7 | 2.6 | 0.3 |
| 50歳代（n=258） | 27.9 | 32.9 | 19.0 | 20.5 | 15.1 | 5.8 | 11.2 | 3.5 | 7.0 | 6.2 | 2.3 | 3.5 | 0.8 | 3.1 | － |
| 60歳代（n=189） | 28.0 | 21.7 | 22.8 | 24.3 | 12.7 | 10.6 | 9.5 | 4.8 | 9.5 | 4.8 | 2.6 | 2.1 | － | 4.8 | － |
| 70歳代（n=245） | 21.6 | 9.8 | 18.8 | 26.9 | 15.1 | 14.7 | 5.3 | 4.5 | 10.2 | 11.4 | 6.9 | 2.9 | 0.8 | 6.9 | 2.0 |
| 80歳代以上（n=94） | 13.8 | 8.5 | 10.6 | 13.8 | 10.6 | 19.1 | 6.4 | 2.1 | 7.4 | 8.5 | 8.5 | － | 1.1 | 23.4 | 4.3 |

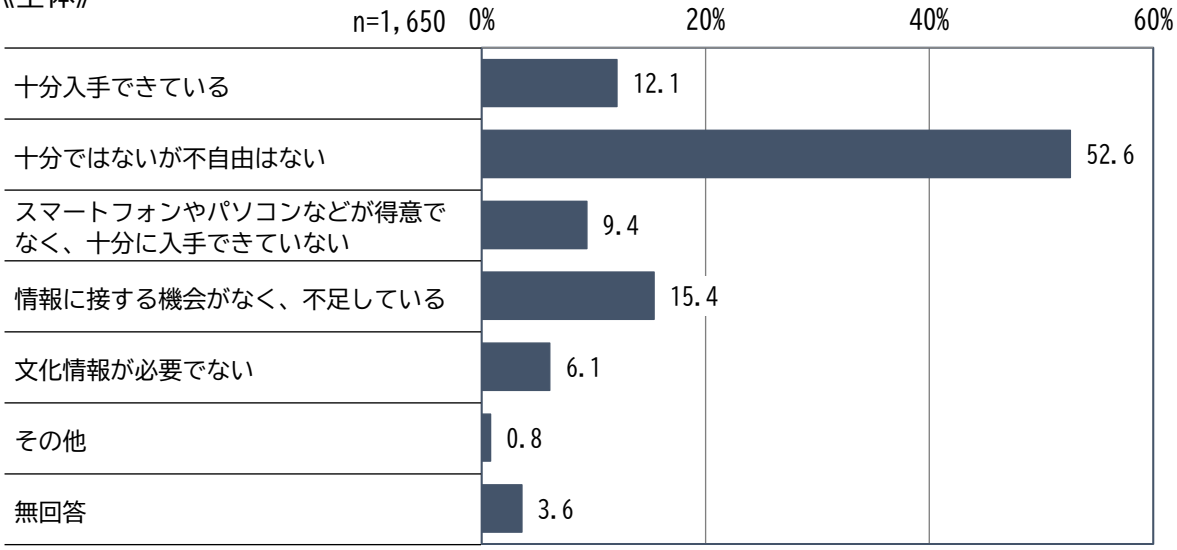
## ③ 文化芸術に関する情報

### ■ 文化芸術活動に関する情報の入手状況

文化芸術活動に関する情報の入手状況について、全体の結果をみると、「十分ではないが不自由はない」の割合（52.6%）が最も高く、50%以上となっています。次いで、「情報に接する機会がなく、不足している」（15.4%）、「十分入手できている」（12.1%）の順で割合が高くなっています。

年代別の結果をみると、いずれの年代も「十分ではないが不自由はない」の割合が最も高くなっていますが、80 歳代以上では割合が低い傾向にあります（28.3%）。また、「十分入手できている」の割合は年代が上がるほど概ね低くなる傾向にあり、70 歳代以上では「スマートフォンやパソコンなどが得意でなく、十分に入手できていない」の割合が 20%以上となっています（70 歳代：21.8%、80 歳代以上：22.0%）。

《全体》




《年代別》

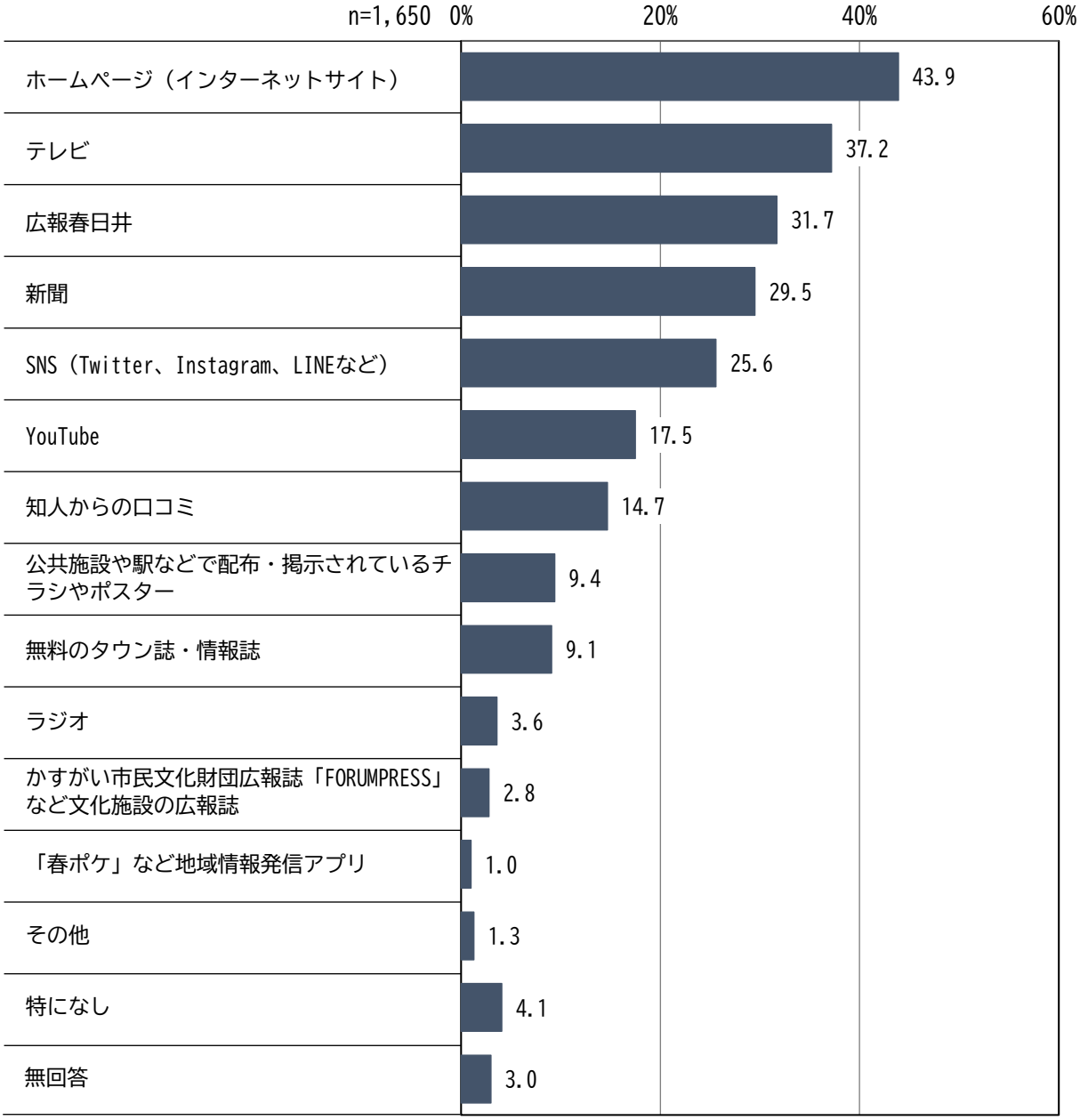
（%）

| | 十分入手できている | 十分ではないが不自由はない | スマートフォンやパソコンなどが得意でなく、十分に入手できていない | 情報に接する機会がなく、不足している | 文化情報が必要でない | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=59） | 23.7 | 50.8 | 5.1 | 8.5 | 8.5 | 1.7 | 1.7 |
| 20歳代（n=132） | 25.0 | 46.2 | - | 16.7 | 9.8 | 0.8 | 1.5 |
| 30歳代（n=183） | 18.6 | 50.8 | 2.7 | 19.1 | 6.6 | 0.5 | 1.6 |
| 40歳代（n=328） | 14.9 | 57.0 | 3.0 | 17.1 | 5.5 | 0.9 | 1.5 |
| 50歳代（n=290） | 10.7 | 63.8 | 3.4 | 15.5 | 4.8 | 0.3 | 1.4 |
| 60歳代（n=206） | 6.8 | 58.7 | 14.6 | 13.1 | 5.3 | - | 1.5 |
| 70歳代（n=312） | 5.4 | 46.8 | 21.8 | 12.2 | 5.8 | 1.9 | 6.1 |
| 80歳代以上（n=127） | 5.5 | 28.3 | 22.0 | 18.1 | 7.1 | 0.8 | 18.1 |

## ■ 文化芸術活動に関する情報の入手方法

文化芸術活動に関する情報の入手方法について、全体の結果をみると、「ホームページ（インターネットサイト）」（43.9%）、「テレビ」（37.2%）、「広報春日井」（31.7%）の順で割合が高くなっています。

《全体》



文化芸術活動に関する情報の入手方法について、年代別の結果をみると、10 歳代、20 歳代では「SNS（Twitter、Instagram、LINE など）」、30 歳代から 50 歳代では「ホームページ（インターネットサイト）」、60 歳代以上では「新聞」の割合が最も高くなっています。

《年代別》

（%）

| | ホームページ（インターネットサイト） | テレビ | 広報春日井 | 新聞 | SNS（Twitter、Instagram、LINEなど） | YouTube | 知人からの口コミ | 公共施設や駅などで配布・掲示されているチラシやポスター | 無料のタウン誌・情報誌 | ラジオ | かすがい市民文化財団広報誌「FORUMPRESS」など文化施設の広報誌 | 「春ポケ」など地域情報発信アプリ | その他 | 特になし | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=59） | 40.7 | 45.8 | 3.4 | 5.1 | 71.2 | 42.4 | 16.9 | 8.5 | 1.7 | － | － | － | － | 3.4 | 1.7 |
| 20歳代（n=132） | 53.8 | 37.9 | 6.1 | 3.8 | 73.5 | 43.2 | 12.9 | 6.1 | 3.0 | 1.5 | － | － | － | 2.3 | 0.8 |
| 30歳代（n=183） | 60.1 | 37.2 | 18.6 | 7.7 | 48.1 | 31.7 | 13.7 | 8.2 | 8.7 | 2.7 | 1.1 | － | 1.1 | 4.4 | － |
| 40歳代（n=328） | 63.7 | 38.4 | 25.6 | 18.6 | 34.8 | 18.0 | 11.9 | 9.5 | 10.7 | 2.7 | 1.2 | 2.1 | 0.6 | 3.7 | 0.3 |
| 50歳代（n=290） | 57.9 | 41.4 | 29.7 | 30.7 | 21.0 | 16.9 | 14.8 | 12.4 | 7.9 | 3.8 | 2.8 | 0.7 | 2.1 | 2.8 | 1.0 |
| 60歳代（n=206） | 38.8 | 39.8 | 39.8 | 41.3 | 7.8 | 11.7 | 15.5 | 10.7 | 15.0 | 4.9 | 5.3 | 1.0 | 1.9 | 2.9 | 1.9 |
| 70歳代（n=312） | 16.3 | 30.1 | 51.6 | 51.9 | 1.0 | 4.8 | 18.9 | 9.9 | 10.3 | 5.4 | 4.2 | 1.3 | 1.6 | 5.4 | 6.4 |
| 80歳代以上（n=127） | 3.9 | 32.3 | 48.0 | 49.6 | － | 0.8 | 11.8 | 5.5 | 5.5 | 3.9 | 5.5 | 0.8 | 1.6 | 8.7 | 15.0 |

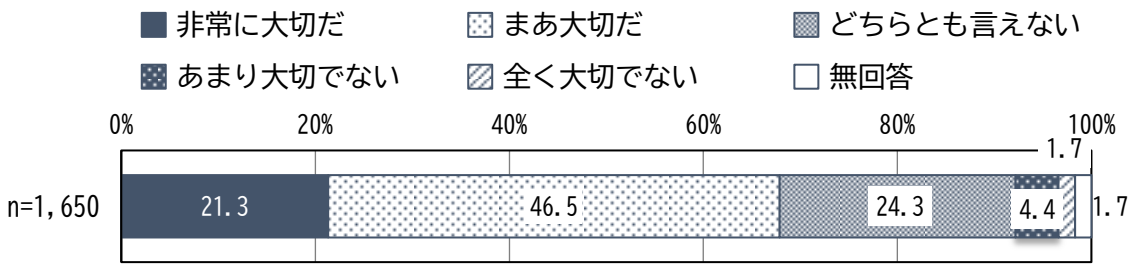
## ④ 文化芸術鑑賞・活動に対する意識

### ■ 文化芸術鑑賞・活動に対する意識

文化芸術鑑賞・活動に対する意識について、全体の結果をみると、『大切』（「非常に大切だ」+「まあ大切だ」）は 67.8%、『大切でない』（「全く大切でない」+「あまり大切でない」）は 6.1%となっています。

年代別の結果をみると、いずれの年代も『大切』の割合の方が高くなっていますが、『大切』の割合は 10 歳代で最も高く、76.3%となっています。また、ほとんどの年代で 60%以上と高い傾向にありますが、80 歳代以上では 50%台（54.3%）となっており、ほかの年代に比べて割合が低い傾向にあります。

《全体》




《年代別》

（%）

| | 非常に大切だ | まあ大切だ | どちらとも言えない | あまり大切でない | 全く大切でない | 無回答 | 大切（非常に大切だ＋まあ大切だ） | 大切でない（全く大切でない＋あまり大切でない） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=59） | 32.2 | 44.1 | 16.9 | 5.1 | - | 1.7 | 76.3 | 5.1 |
| 20歳代（n=132） | 26.5 | 47.0 | 20.5 | 3.8 | 1.5 | 0.8 | 73.5 | 5.3 |
| 30歳代（n=183） | 19.1 | 51.4 | 21.3 | 5.5 | 1.6 | 1.1 | 70.5 | 7.1 |
| 40歳代（n=328） | 22.3 | 47.3 | 25.3 | 3.7 | 1.5 | - | 69.6 | 5.2 |
| 50歳代（n=290） | 21.7 | 50.7 | 22.4 | 3.1 | 1.4 | 0.7 | 72.4 | 4.5 |
| 60歳代（n=206） | 18.0 | 48.1 | 25.2 | 5.3 | 3.4 | - | 66.1 | 8.7 |
| 70歳代（n=312） | 20.5 | 42.9 | 26.9 | 5.8 | 1.3 | 2.6 | 63.4 | 7.1 |
| 80歳代以上（n=127） | 18.1 | 36.2 | 28.3 | 3.9 | 2.4 | 11.0 | 54.3 | 6.3 |

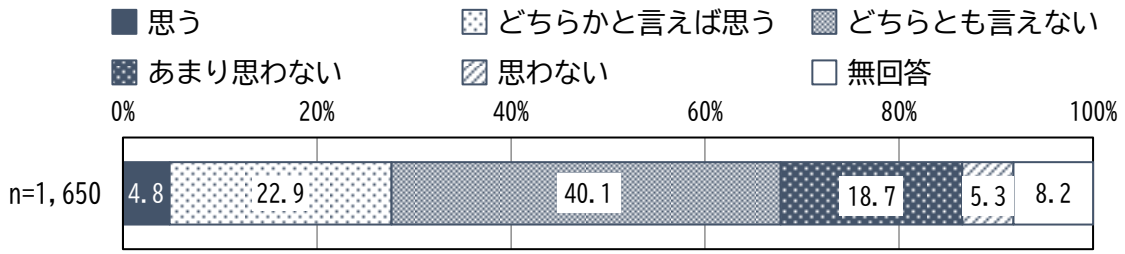
## ⑤ 市の文化芸術鑑賞・活動に対する考え

### ■ 春日井市は文化芸術活動が盛んなまちだと思うか

春日井市は文化芸術活動が盛んなまちだと思うかについて、全体の結果をみると、『思う』（「思う」+「どちらかと言えば思う」）は 27.7%、『思わない』（「思わない」+「あまり思わない」）は 24.0%となっています。

年代別の結果をみると、ほとんどの年代において『思う』の割合の方が高くなっていますが、30 歳代、60 歳代では『思わない』の割合の方が高くなっています。「思う」の割合は 10 歳代で最も高く、ほかの年代を大きく上回り、52.6%となっています。

《全体》




《年代別》

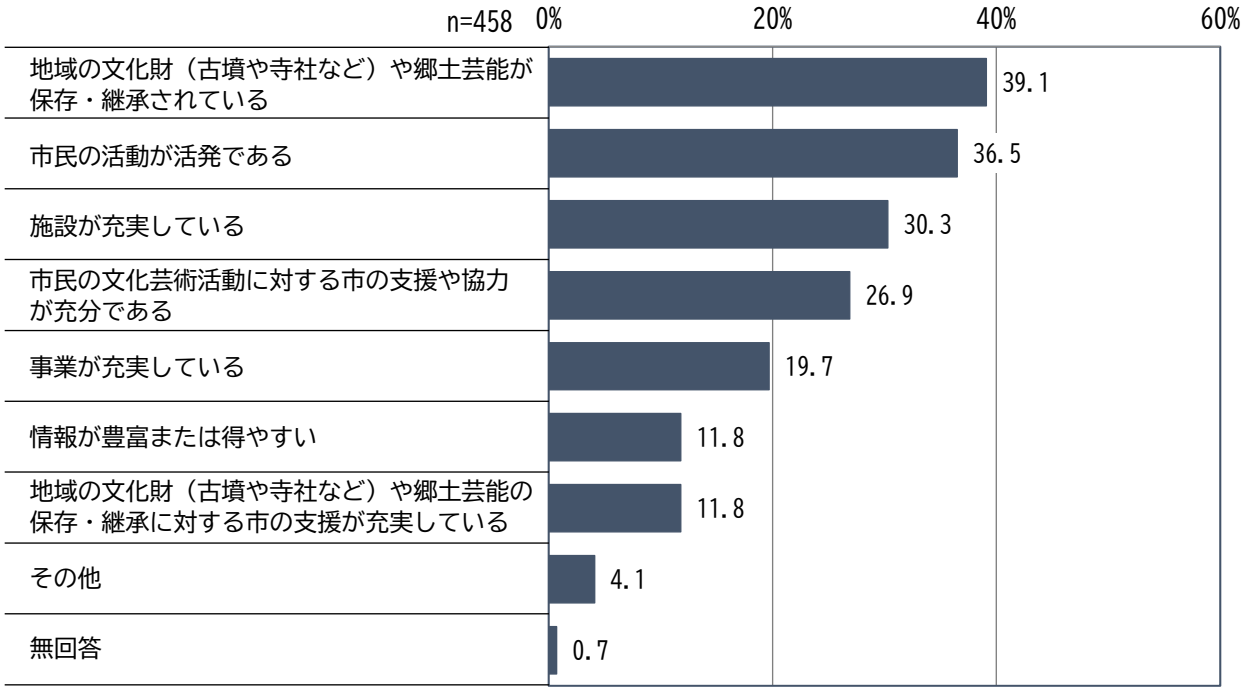
（%）

| | 思う | どちらかと言えば思う | どちらとも言えない | あまり思わない | 思わない | 無回答 | 思う（思う＋どちらかと言えば思う） | 思わない（思わない＋あまり思わない） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=59） | 15.3 | 37.3 | 32.2 | 1.7 | 6.8 | 6.8 | 52.6 | 8.5 |
| 20歳代（n=132） | 5.3 | 25.8 | 40.2 | 18.9 | 6.8 | 3.0 | 31.1 | 25.7 |
| 30歳代（n=183） | 3.3 | 19.1 | 49.7 | 20.2 | 5.5 | 2.2 | 22.4 | 25.7 |
| 40歳代（n=328） | 4.6 | 24.4 | 43.0 | 16.2 | 6.4 | 5.5 | 29.0 | 22.6 |
| 50歳代（n=290） | 1.7 | 23.1 | 41.4 | 19.7 | 4.8 | 9.3 | 24.8 | 24.5 |
| 60歳代（n=206） | 1.9 | 21.4 | 38.8 | 21.8 | 4.9 | 11.2 | 23.3 | 26.7 |
| 70歳代（n=312） | 5.8 | 21.8 | 38.5 | 20.2 | 2.9 | 10.9 | 27.6 | 23.1 |
| 80歳代以上（n=127） | 11.8 | 20.5 | 24.4 | 18.9 | 7.1 | 17.3 | 32.3 | 26.0 |

## ■ 春日井市は文化芸術活動が盛んなまちだと思う理由

春日井市は文化芸術活動が盛んなまちだと思う理由について、全体の結果をみると、「地域の文化財（古墳や寺社など）や郷土芸能が保存・継承されている」（39.1%）、「市民の活動が活発である」（36.5%）、「施設が充実している」（30.3%）の順で割合が高くなっています。

《全体》



春日井市は文化芸術活動が盛んなまちだと思う理由について、年代別の結果をみると、10歳代、50歳代、70歳代では「市民の活動が活発である」、20歳代、40歳代では「施設が充実している」、30歳代、50歳代、80歳代以上では「地域の文化財（古墳や寺社など）や郷土芸能が保存・継承されている」の割合が最も高くなっています。

《年代別》

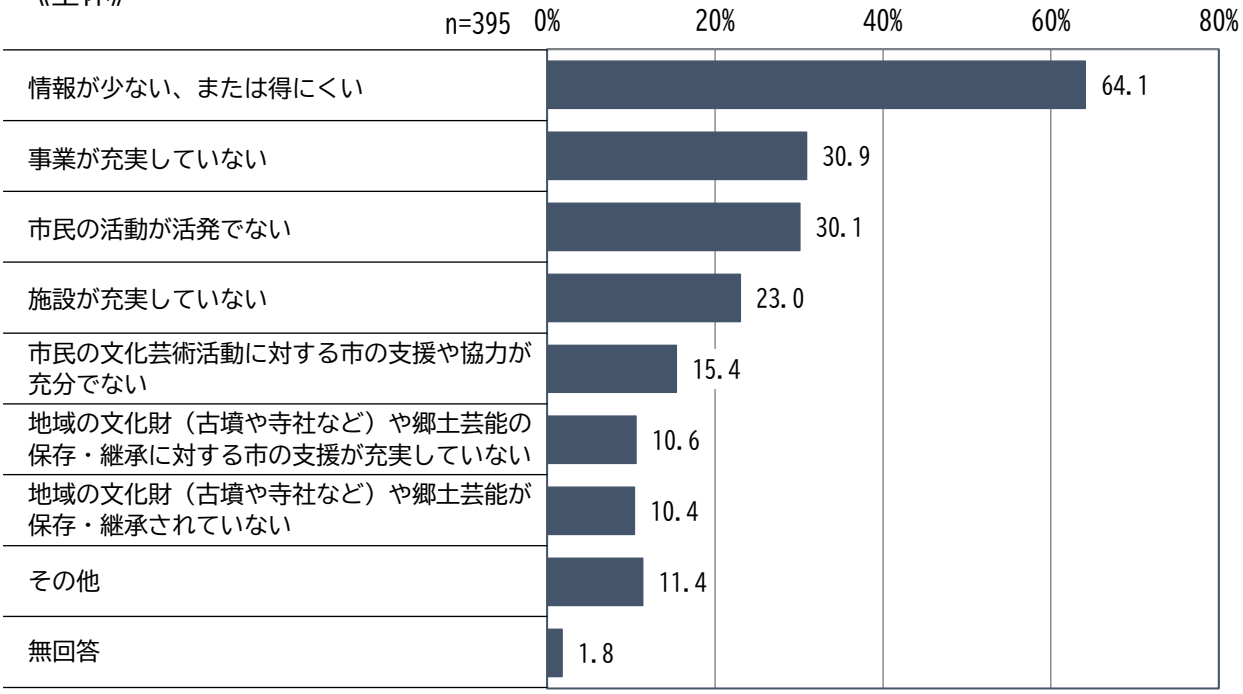
（%）

| | 地域の文化財（古墳や寺社など）や郷土芸能が保存・継承されている | 市民の活動が活発である | 施設が充実している | 市民の文化芸術活動に対する市の支援や協力が充分である | 事業が充実している | 情報が豊富または得やすい | 地域の文化財（古墳や寺社など）や郷土芸能の保存・継承に対する市の支援が充実している | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=31） | 29.0 | 32.3 | 22.6 | 29.0 | 29.0 | 3.2 | 16.1 | 6.5 | - |
| 20歳代（n=41） | 31.7 | 24.4 | 41.5 | 26.8 | 22.0 | 17.1 | 7.3 | 7.3 | - |
| 30歳代（n=41） | 39.0 | 31.7 | 36.6 | 14.6 | 17.1 | 17.1 | 9.8 | 2.4 | - |
| 40歳代（n=95） | 33.7 | 28.4 | 35.8 | 23.2 | 22.1 | 11.6 | 8.4 | 6.3 | 1.1 |
| 50歳代（n=72） | 43.1 | 51.4 | 29.2 | 37.5 | 15.3 | 12.5 | 12.5 | - | - |
| 60歳代（n=48） | 50.0 | 31.3 | 25.0 | 25.0 | 22.9 | 12.5 | 10.4 | 4.2 | - |
| 70歳代（n=86） | 38.4 | 48.8 | 24.4 | 29.1 | 12.8 | 7.0 | 15.1 | 4.7 | - |
| 80歳代以上（n=41） | 48.8 | 31.7 | 24.4 | 24.4 | 26.8 | 14.6 | 12.2 | 2.4 | 4.9 |

## ■ 春日井市は文化芸術活動が盛んなまちだと思わない理由

春日井市は文化芸術活動が盛んなまちだと思わない理由について、全体の結果をみると、「情報が少ない、または得にくい」の割合（64.1%）が最も多く、60%以上となっています。次いで、「事業が充実していない」（30.9%）、「市民の活動が活発でない」（30.1%）の順で割合が高くなっています。

《全体》

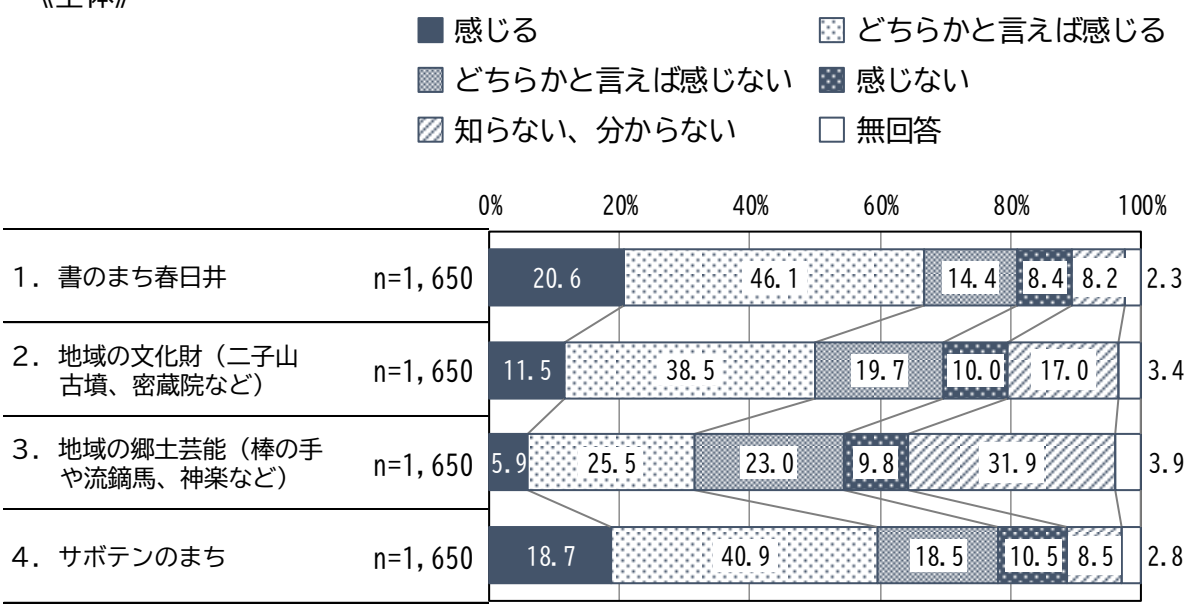


## ■ 地域の文化に対する愛着や誇り

地域の文化に対して愛着や誇りを『感じる』（「感じる」+「どちらかと言えば感じる」)の割合について、全体の結果をみると、「書のまち春日井」（66.7%）、「サボテンのまち」（59.6%）での割合が高くなっています。

「書のまち春日井」について『感じる』の割合を年代別でみると、いずれの世代においても高い割合となっています。

《全体》




《書のまち春日井・年代別》

（%）

| | 感じる | どちらかと言えば感じる | どちらかと言えばない感じ | 感じない | 知らない、分からない | 無回答 | 感じる | 感じない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=59） | 25.4 | 50.8 | 16.9 | 3.4 | 3.4 | - | 76.2 | 3.4 |
| 20歳代（n=132） | 18.9 | 42.4 | 14.4 | 10.6 | 13.6 | - | 61.3 | 10.6 |
| 30歳代（n=183） | 12.0 | 42.1 | 16.9 | 10.9 | 17.5 | 0.5 | 54.1 | 10.9 |
| 40歳代（n=328） | 19.8 | 48.5 | 13.1 | 10.4 | 8.2 | - | 68.3 | 10.4 |
| 50歳代（n=290） | 20.3 | 50.7 | 13.8 | 11.7 | 3.4 | - | 71.0 | 11.7 |
| 60歳代（n=206） | 22.3 | 45.6 | 15.0 | 8.7 | 5.3 | 2.9 | 67.9 | 8.7 |
| 70歳代（n=312） | 22.1 | 45.5 | 14.7 | 2.9 | 8.3 | 6.4 | 67.6 | 2.9 |
| 80歳代以上（n=127） | 28.3 | 40.2 | 12.6 | 4.7 | 5.5 | 8.7 | 68.5 | 4.7 |

「地域の文化財（二子山古墳、密蔵院など）」について、愛着や誇りを『感じる』の割合を年代別でみると、40 歳代以上では比較的高くなっていますが、20 歳代、30 歳代での割合が30%台と低い傾向にあります。

「地域の郷土芸能（棒の手や流鏑馬、神楽など）」について、愛着や誇りを『感じる』の割合を年代別でみると、50 歳代以上での割合が比較的高くなっているものの、30%台となっています。一方、20 歳代、30 歳代での割合は低く、10%台となっています。

《地域の文化財（二子山古墳、密蔵院など）・年代別》

（%）

| | 感じる | どちらかと言えば感じる | どちらかと言えば感じない | 感じない | 知らない、分からない | 無回答 | 感じる | 感じない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=59） | 15.3 | 25.4 | 27.1 | 10.2 | 22.0 | - | 40.7 | 10.2 |
| 20歳代（n=132） | 6.1 | 28.8 | 18.9 | 9.8 | 35.6 | 0.8 | 34.9 | 9.8 |
| 30歳代（n=183） | 7.1 | 29.5 | 18.6 | 18.6 | 25.7 | 0.5 | 36.6 | 18.6 |
| 40歳代（n=328） | 9.1 | 41.5 | 22.0 | 9.5 | 18.0 | - | 50.6 | 9.5 |
| 50歳代（n=290） | 9.3 | 44.5 | 24.5 | 13.8 | 7.9 | - | 53.8 | 13.8 |
| 60歳代（n=206） | 14.6 | 42.7 | 16.5 | 8.3 | 14.1 | 3.9 | 57.3 | 8.3 |
| 70歳代（n=312） | 18.3 | 39.1 | 16.3 | 3.5 | 14.7 | 8.0 | 57.4 | 3.5 |
| 80歳代以上（n=127） | 11.0 | 37.0 | 15.7 | 8.7 | 11.0 | 16.5 | 48.0 | 8.7 |

《地域の郷土芸能（棒の手や流鏑馬、神楽など）・年代別》

（%）

| | 感じる | どちらかと言えば感じる | どちらかと言えば感じない | 感じない | 知らない、分からない | 無回答 | 感じる | 感じない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=59） | 13.6 | 15.3 | 25.4 | 10.2 | 35.6 | - | 28.9 | 10.2 |
| 20歳代（n=132） | 3.8 | 15.9 | 22.0 | 9.1 | 48.5 | 0.8 | 19.7 | 9.1 |
| 30歳代（n=183） | 2.2 | 16.9 | 21.9 | 14.8 | 43.7 | 0.5 | 19.1 | 14.8 |
| 40歳代（n=328） | 4.3 | 25.0 | 24.4 | 9.5 | 36.9 | - | 29.3 | 9.5 |
| 50歳代（n=290） | 3.8 | 31.0 | 29.0 | 14.5 | 21.7 | - | 34.8 | 14.5 |
| 60歳代（n=206） | 5.8 | 32.0 | 19.9 | 8.7 | 28.6 | 4.9 | 37.8 | 8.7 |
| 70歳代（n=312） | 9.6 | 28.8 | 19.9 | 4.5 | 27.9 | 9.3 | 38.4 | 4.5 |
| 80歳代以上（n=127） | 10.2 | 21.3 | 20.5 | 7.1 | 22.8 | 18.1 | 31.5 | 7.1 |

「サボテンのまち」について、愛着や誇りを『感じる』の割合を年代別でみると、いずれの世代においても高い割合となっていますが、他の年代に比べて、60 歳以上での割合が低い傾向にあります。

《サボテンのまち・年代別》

（%）

| | 感じる | どちらかと言えば感じる | どちらかと言えば感じない | 感じない | 知らない、分からない | 無回答 | 感じる | 感じない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=59） | 44.1 | 33.9 | 8.5 | 8.5 | 5.1 | - | 78.0 | 8.5 |
| 20歳代（n=132） | 24.2 | 36.4 | 15.9 | 10.6 | 12.9 | - | 60.6 | 10.6 |
| 30歳代（n=183） | 16.9 | 43.7 | 16.9 | 6.0 | 15.8 | 0.5 | 60.6 | 6.0 |
| 40歳代（n=328） | 19.2 | 47.9 | 14.9 | 10.4 | 7.6 | - | 67.1 | 10.4 |
| 50歳代（n=290） | 15.5 | 44.5 | 23.4 | 12.1 | 4.5 | - | 60.0 | 12.1 |
| 60歳代（n=206） | 17.5 | 39.3 | 20.9 | 14.6 | 5.3 | 2.4 | 56.8 | 14.6 |
| 70歳代（n=312） | 15.4 | 38.1 | 19.9 | 8.7 | 9.6 | 8.3 | 53.5 | 8.7 |
| 80歳代以上（n=127） | 20.5 | 28.3 | 19.7 | 11.0 | 8.7 | 11.8 | 48.8 | 11.0 |

春日井市は文化芸術活動が盛んなまちだと思わない理由について、年代別の結果をみると、いずれの年代においても「情報が少ない、または得にくい」の割合が最も高くなっています。

《年代別》

（%）

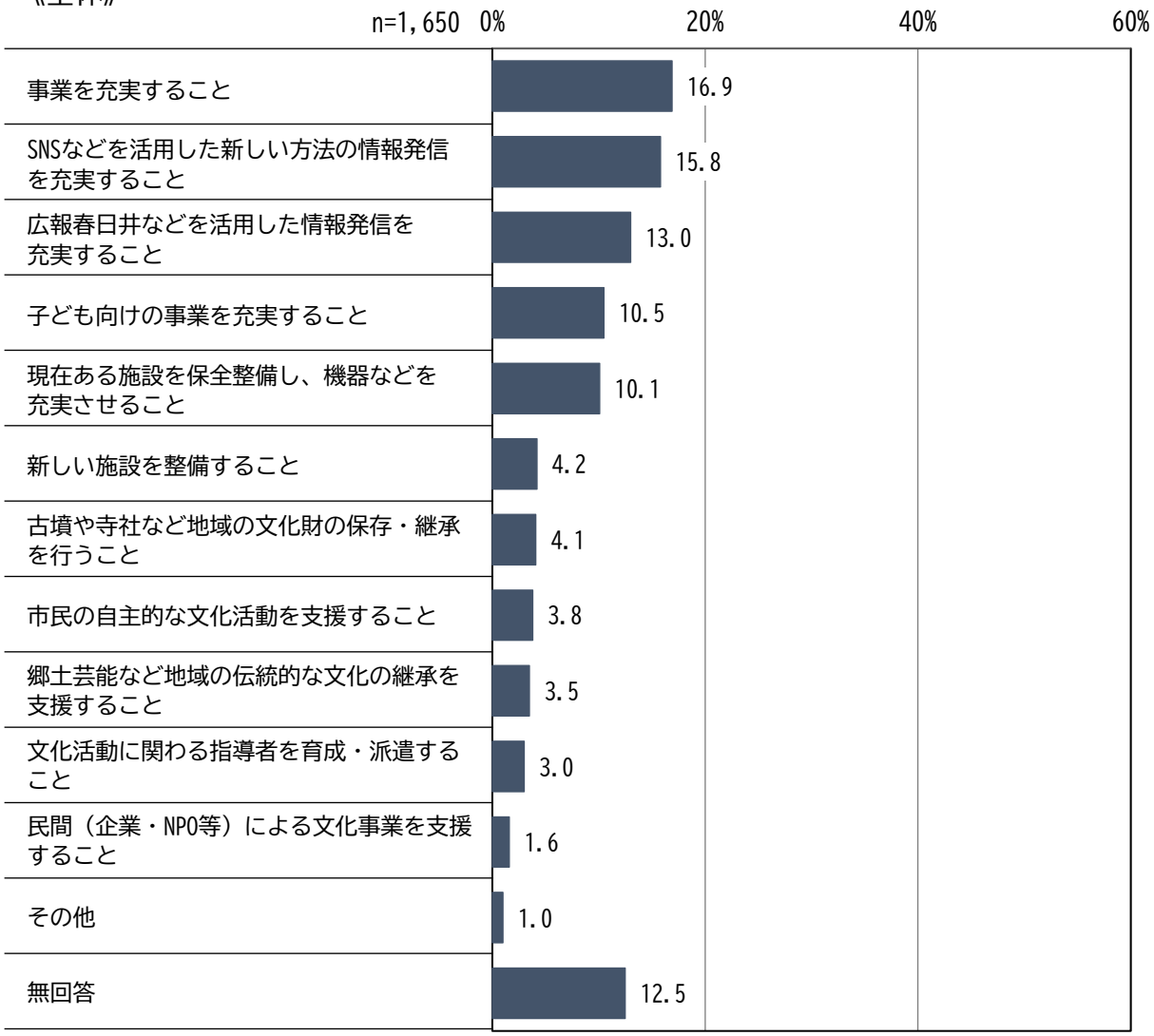
| | 情報が少ない、または得にくい | 事業が充実していない | 市民の活動が活発でない | 施設が充実していない | 市民の文化芸術活動に対する市の支援や協力が充分でない | 地域の文化財（古墳や寺社など）や郷土芸能の保存・継承に対する市の支援が充実していない | 地域の文化財（古墳や寺社など）や郷土芸能が保存・継承されていない | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=5） | 80.0 | 20.0 | 40.0 | － | － | 20.0 | 20.0 | 20.0 | － |
| 20歳代（n=34） | 73.5 | 32.4 | 35.3 | 17.6 | 14.7 | 8.8 | 8.8 | 8.8 | － |
| 30歳代（n=47） | 57.4 | 38.3 | 25.5 | 21.3 | 17.0 | 2.1 | 4.3 | 12.8 | － |
| 40歳代（n=74） | 63.5 | 28.4 | 31.1 | 24.3 | 13.5 | 9.5 | 10.8 | 10.8 | 1.4 |
| 50歳代（n=71） | 67.6 | 40.8 | 25.4 | 28.2 | 16.9 | 15.5 | 8.5 | 8.5 | － |
| 60歳代（n=55） | 69.1 | 38.2 | 40.0 | 23.6 | 12.7 | 10.9 | 12.7 | 12.7 | 1.8 |
| 70歳代（n=72） | 62.5 | 18.1 | 34.7 | 26.4 | 15.3 | 13.9 | 13.9 | 6.9 | 4.2 |
| 80歳代以上（n=33） | 54.5 | 24.2 | 15.2 | 15.2 | 21.2 | 9.1 | 12.1 | 27.3 | － |

## ⑥ 文化芸術の振興に必要な視点

### ■ 文化芸術の振興のために最も重要だと思う取組

文化芸術の振興のために最も重要だと思う取組について、全体の結果をみると、「事業を充実すること」（16.9%）、「SNS などを活用した新しい方法の情報発信を充実すること」（15.8%）、「広報春日井などを活用した情報発信を充実すること」（13.0%）の順で割合が高くなっています。

《全体》



文化芸術の振興のために最も重要だと思う取組について、年代別の結果をみると、10 歳代から 50 歳代までは「SNS などを活用した新しい方法の情報発信を充実すること」、60 歳代以上では「広報春日井などを活用した情報発信を充実すること」の割合が最も高く、手段は違うもののいずれの年代も情報発信が重要であると回答しています。

《年代別》

（%）

| | 事業を充実すること | SNSなどを活用した新しい方法の情報発信を充実すること | 広報春日井などを活用した情報発信を充実すること | 子ども向けの事業を充実すること | 現在ある施設を保全整備し、機器などを充実させること | 新しい施設を整備すること | 古墳や寺社など地域の文化財の保存・継承を行うこと | 市民の自主的な文化活動を支援すること | 郷土芸能など地域の伝統的な文化の継承を支援すること | 文化活動に関わる指導者を育成・派遣すること | 民間（企業・NPO等）による文化事業を支援すること | その他 | 無回答 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10歳代（n=59） | 10.2 | 18.6 | 1.7 | 16.9 | 10.2 | 5.1 | 6.8 | 10.2 | 3.4 | 5.1 | 1.7 | － | 10.2 |
| 20歳代（n=132） | 12.1 | 15.2 | 6.1 | 12.9 | 12.1 | 6.8 | 3.8 | 6.8 | 5.3 | 2.3 | 2.3 | 0.8 | 13.6 |
| 30歳代（n=183） | 9.8 | 18.6 | 8.2 | 16.4 | 12.0 | 4.9 | 1.1 | 6.0 | 2.7 | 1.1 | 7.1 | 0.5 | 11.5 |
| 40歳代（n=328） | 8.2 | 16.8 | 10.4 | 13.1 | 9.5 | 4.3 | 6.7 | 4.3 | 5.2 | 4.9 | 4.6 | 0.9 | 11.3 |
| 50歳代（n=290） | 9.3 | 13.1 | 12.1 | 7.9 | 11.0 | 7.2 | 6.2 | 5.9 | 7.6 | 3.4 | 4.1 | 0.7 | 11.4 |
| 60歳代（n=206） | 5.3 | 11.2 | 17.5 | 7.8 | 11.7 | 1.5 | 7.8 | 4.9 | 8.7 | 7.3 | 4.9 | 0.5 | 11.2 |
| 70歳代（n=312） | 4.8 | 5.8 | 17.0 | 8.3 | 6.7 | 2.2 | 8.0 | 8.3 | 7.1 | 3.8 | 2.9 | － | 25.0 |
| 80歳代以上（n=127） | 3.9 | 2.4 | 15.0 | 7.9 | 10.2 | 1.6 | 6.3 | 5.5 | 6.3 | 1.6 | 1.6 | － | 37.8 |

# 3　前期プランの検証

## （1）前期計画の概要

前期プランにおいては、計画の基本理念を「世代を越えて響き合う　文化創造のまち春日井」とし、「基本目標１　参加と体験による文化が生まれる環境づくり」、「基本目標２　特色ある「春日井文化」の継承・創造」、「基本目標３　文化を通じた連携のまちづくり」の３つの柱を軸に文化芸術の振興に関する施策の推進に取り組んできました。

## （2）取組の進捗状況

計画の見直しにあたり、取組の進捗状況を整理し、課題の把握を行いました。前期計画における取組の進捗状況については以下の通りです。

### 基本目標1　参加と体験による文化が生まれる環境づくり

#### 施策1　幅広い鑑賞機会・文化活動機会の提供

① 取組の状況

本市では、より多くの人が文化芸術に興味を持てるよう、多彩な事業を開催しています。気軽に文化芸術にふれる機会としては、「あ～とふるマイタウン」や「かすがい　どこでも　アート・ドア」（文化財団主催）の取組により、地域の公民館等へ様々なジャンルの芸術家の派遣を行ってきました。また、文化事業の実施にあたっては、文化フォーラム春日井や市民会館等の文化施設だけではなく、より市民に身近な場所での文化芸術鑑賞の機会の提供に努めており、市民会館や東部市民センターなどではコンサートや演劇などの舞台系事業を、文化フォーラム春日井・ギャラリーでは展覧会等の美術系事業などを実施し、多くの参加者がありました。

文化活動を行う市民が発表する場の提供としては、市民美術展・道風展・短詩型文学祭・第九演奏会が実施されています。高齢化や少子化の影響もあり出品者・出演者はいずれも減少傾向にはありますが、PR 方法の検討もあり新しい参加者を得ることができました。

2020 年（令和２年）の春以降は、新型コロナウイルス感染症の影響下で、実施できた事業は減ってしまいましたが、文化財団の事業を中心に、感染症対策を取った上で、質の高い魅力的な事業が実施されており、2021 年度（令和３年度）には道風記念館において開館 40 周年記念事業が行われるなど、拠点となる文化施設又は身近な施設で様々な文化芸術鑑賞の機会が提供されており、施策を概ね推進することができました。

### ② 目標達成状況

新型コロナウイルス感染症の影響によりここ数年は、活動の機会や発表の機会が制限され、十分な活動が難しい状況となりました。その影響もあり、成果指標「文化芸術の活動をしている人の割合」は 2016 年度（平成 28 年度）の 14.5%から 12.3%に減少し、目標の 20.0%を下回っています。

【成果指標の推移】

| 指標 | 策定時績 | 実績 | 目標値 |
|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R3） |
| 文化芸術の活動をしている人の割合 | 14.5% | 12.3% | 20.0% |

## 施策2 次世代の文化活動を担う人材の育成

### ① 取組の状況

本市では地元出身の若手芸術家や文化芸術の活動を行う市民等への支援に取組んでいます。文化財団においては、2018 年度（平成 30 年度）より若手音楽家支援事業をスタートさせ、地域に根差した活動を行う若手音楽家の育成に取り組んでいます。また、若手音楽家を幼稚園や保育園、小中学校、地域の福祉団体等への派遣し、芸術家と市民の交流を図ることにより、幅広い層に文化芸術を届ける役割を果たしています。

新型コロナウイルス感染症の影響下では、若手芸術家の活動は大変難しい状況となりましたが、開催できなかった昼コン・夜コンの代替として、若手音楽家が出演する映像を配信するなどの支援策を講じ、施策を概ね推進することができました。

一方で、文化活動団体等に対する支援については、継続的な支援を行っているものの、新型コロナウイルス感染症の影響で、文化活動団体の活動は十分には行えませんでした。

② 目標達成状況

成果指標「若手芸術家等の学校派遣による特別授業の受講児童・生徒数」は 2016 年度（平成 28 年度）の 653 人から約 1.7 倍増加し、2021 年度（令和３年度）の目標だけでなく、2026 年度（令和８年）の目標として設定していた 800 人も達成しています。

成果指標「高校生以下を対象とするアウトリーチ事業の実施回数」については減少傾向にありましたが、2021 年度（令和３年度）には計画策定時と同じレベルに回復しています。

【成果指標の推移】

| 指標 | 策定時値 | 実績 | | | | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2018 年度（H30 年度） | 2019 年度（R 元年度） | 2020 年度（R2 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R 年度） |
| 若手芸術家等の学校派遣による特別授業の受講児童・生徒数 | 653 人 | 569 人 | 405 人 | 1,126 人 | 2,578 人 | 700 人 |

【参考指標の推移】

| 指標 | 策定時値 | 実績 | | | | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2018 年度（H30 年度） | 2019 年度（R 元年度） | 2020 年度（R2 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R 年度） |
| 高校生以下を対象とするアウトリーチ事業の実施回数 | 23 回 | 18 回 | 13 回 | 9 回 | 23 回 | - |

## 施策3 知りたい人に届く文化情報発信

① 取組の状況

市内の文化情報については、広報春日井や文化財団広報誌「FORUM PRESS」、新聞、企業等が発行する情報誌への情報掲載、ケーブルテレビなどにより発信を行っています。また、インターネットやスマートフォンの普及に伴い、情報提供手段が多様化してきていることから、市公式アプリ「春ポケ」の導入や、市や文化財団公式の Line、Twitter 等、SNS を活用した情報発信を進めてきました。

市民アンケートの結果をみると、「身の回りでの文化芸術に関する情報についてどのように感じているか」という問に対し、全体の 12.1%が「十分入手できている」、52.6%が「十分ではないが不自由はない」と回答しており、施策が推進された結果と考えられます（「十分に入手できていない」+「不足している」＝24.8%）。

### ② 目標達成状況

成果指標「市が情報発信の充実に力を入れていくべきと考える人の割合」については大きく増加しています。

【成果指標の推移】

| 指標 | 策定時績 | 実績 | 目標値 |
|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R3） |
| 市が情報発信の充実に力を入れていくべきと考える人の割合 | 43.0% | 66.2% | 35.0% |

## 施策4 市民による文化活動支援の推進

### ① 取組の状況

本市では、「市民一人ひとりの手で文化のまちづくりを！」を合言葉に、市民や企業などが市民の文化活動を支援する「市民メセナ活動※」の推進に取り組んでおり、その担い手である文化ボランティアは文化活動団体の実施する事業の運営補助等、市民の文化活動への支援を行っています。

活動の財源である市民メセナ基金については、2019 年度（令和元年度）より市民メセナ基金活用事業である文化ボランティアの活動や、「あ～とふるマイタウン」、「かすがい どこでも アート・ドア」の実施会場において主催者や来場者に対して広く寄附を呼びかけており、多くの市民から寄附が寄せられるようになりました。

また、文化ボランティア活動時に、基金と文化ボランティアの案内チラシの配布を始めるなど PR を強化したところ、毎年新しい登録者が増えてきていることから、施策を概ね推進することができていると考えられます。一方で、基金を活用している事業の規模が拡大したこともあり、メセナ基金の残高は減少傾向にあります。

用語解説

※市民メセナ活動
メセナとは文化・芸術の擁護・支援を意味するフランス語です。本市では文化振興基本条例において、「市民が市民の文化活動を擁護又は支援する活動」と定義しています。

② 目標達成状況

成果指標「文化ボランティアの登録者数」については各年 20 人前後で推移してます。

参考指標「文化財団サポーター登録者数」については年々減少傾向にあります。

【成果指標の推移】

| 指標 | 策定時値 | 実績 | | | | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2018 年度（H30 年度） | 2019 年度（R 元年度） | 2020 年度（R2 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R 年度） |
| 文化ボランティア登録者数 | 23 人 | 19 人 | 21 人 | 21 人 | 22 人 | 25 人 |

【参考指標の推移】

| 指標 | 策定時値 | 実績 | | | | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2018 年度（H30 年度） | 2019 年度（R 元年度） | 2020 年度（R2 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R 年度） |
| 文化財団サポーター登録者数 | 53 人 | 57 人 | 50 人 | 49 人 | 35 人 | - |

## 施策5 文化が育つ拠点施設の充実

① 取組の状況

本市では、公共施設個別施設計画に基づき、施設の改修や機器の更新工事等を進めています。2020 年（令和２年）から 2021 年（令和３年）には文化フォーラム春日井、2021 年度（令和３年度）には東部市民センターホールで大規模改修工事を実施し、施設の長寿命化と利用者の利便性の向上を図っており、施策を概ね推進することができました。

アンケート結果によると、施設利用者はフォーラム春日井が 59.6%、市民会館が 49.2%、東部市民センターホールが 39.5%、道風記念館が 17.7%となっており、フォーラム春日井、市民会館と比較して、東部市民センターホール、道風記念館の利用割合は少ない状況にあります。

② 目標達成状況

成果指標「市の文化施設が充実していると考える人の割合」は増加しており、目標を達成しています。

【成果指標の推移】

| 指標 | 策定時績 | 実績 | 目標値 |
|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R3） |
| 市の文化施設が充実していると考える人の割合 | 28.8% | 30.3% | 30.0% |

## 基本目標2　特色ある「春日井文化」の継承・創造

### 施策6　特色ある文化の推進

#### ①　取組の状況

本市では独自の特色ある文化として「書のまち春日井」の推進に取り組み、マスコットキャラクター「道風くん」の活用を始め、「小野道風公奉賛全国書道展覧会（以下、道風展といいます。）」の開催など、全国でも数少ない書専門の美術館である道風記念館での各種事業を展開しています。市民アンケートでは、「書のまち春日井」について、約 20%が「愛着や誇りを感じる」、約 46%が「やや愛着や誇りを感じる」と回答しており、70%近くの人が「書のまち春日井」に誇りや愛着を感じているという結果が出ています。

「書のまち春日井」の推進に向けては、道風展のほか、新生児への書家揮毫命名紙入り写真の贈呈や、商業施設での書道パフォーマンスの披露など、幅広い層に PR するための新しい取組も実施しています。

そのほか、自分史※の普及・振興に向けて、日本自分史センターの運営、短編自分史作品の全国公募事業を実施しており、2016 年度（平成 28 年度）からは「演劇×自分史」事業に取り組むなど、事業の充実に努めており、概ね事業が推進できました。

**用語解説**

※自分史
自分が体験してきたことを積み重ねた、自分の歴史のことをいいます。
本市では、全国の自治体で初めての自分史に関する施設「日本自分史センター」を文化フォーラム春日井 2 階に設けています。 ここでは、自分史活動を支援していくため、自分史の普及・振興のための諸事業を行っています。

#### ②　目標達成状況

成果指標「道風展の応募作品数」については、少子化の影響もあり、応募作品数が減少しています。「自分史講座の受講者数」については、講師の高齢化のため講座の開催回数が減少したことに加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる講座も多く、実施回数が減少しています。

参考指標「道風展の鑑賞者数」もやや減少していますが、新型コロナウイルス感染症の影響であると推測されます。「道風展 VR 展のアクセス数」については新型コロナウイルス感染症の影響により外出が控えられる傾向にあった 2020 年度（令和 2 年度）はアクセス数が伸びています。

「自分史事業への参加者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響で事業規模を縮小したことにより受講者数と同様に減少傾向にあります。

【成果指標の推移】

| 指標 | 策定時値 | 実績 | | | | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2018 年度（H30 年度） | 2019 年度（R 元年度） | 2020 年度（R2 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R 年度） |
| 道風展への応募作品数 | 6,458 点 | 6,321 点 | 5,919 点 | 6,071 点 | 5,904 点 | 6,700 点 |
| 自分史講座の受講者数 | 53 人 | 36 人 | 19 人 | 中止 | 45 人 | 60 人 |

【参考指標の推移】

| 指標 | 策定時値 | 実績 | | | | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2018 年度（H30 年度） | 2019 年度（R 元年度） | 2020 年度（R2 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R 年度） |
| 道風展の鑑賞者数 | 5,778 人 | 5,017 人 | 4,195 人 | 5,908 人 | 5,402 人 | - |
| 道風展 VR 展のアクセス数 | 未実施 | 未実施 | 1,037 アクセス | 1,867 アクセス | 1,183 アクセス | - |
| 自分史事業への参加者数 | 631 人 | 1,326 人 | 1,258 人 | 430 人 | 404 人 | - |

## 施策7　文化財・伝統文化の保存・継承・活用

### ①　取組の状況

市内には密蔵院（熊野町）や内々神社（内津町）、味美二子山古墳（二子町）など貴重な文化財が数多く残されています。また、各地域には棒の手や神楽、流鏑馬などの郷土芸能が伝えられています。ライフスタイルや価値観の変化、少子高齢化、産業の発展など、様々な要因により、伝統文化の保存・継承・活用が重要視されるなか、本市では文化財の所有者、地域の保存団体、文化財ボランティア、教育委員会や市が連携した取組が行われています。例えば、学校で体験教室を受講した小学生が地域の郷土芸能団体に新たに加入し、児童の保護者も活動に加わるなど、関係団体等との連携による取組が地域文化の継承につながっています。

また、地域に残る文化財を適切に保存・管理し、後世に継承していくため、継続的な調査を行っています。

② 目標達成状況

成果指標「民俗考古展示室の観覧者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響で小学校の団体見学が激減してしまったこともあり、2019 年度（令和元年度）以降は計画策定時値より減少傾向にあります。

参考指標「講座等（親子体験教室、古代史講座等）への参加者数」については、2018 年度（平成 30 年度）には 700 人を超えたものの、その後は減少傾向にあります。

【成果指標の推移】

| 指標 | 策定時値 | 実績 | | | | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2018 年度（H30 年度） | 2019 年度（R 元年度） | 2020 年度（R2 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R 年度） |
| 民俗考古展示室の観覧者数 | 7,130 人 | 6,157 人 | 5,543 人 | 1,655 人 | 4,013 人 | 7,500 人 |

【参考指標の推移】

| 指標 | 策定時値 | 実績 | | | | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2018 年度（H30 年度） | 2019 年度（R 元年度） | 2020 年度（R2 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R 年度） |
| 講座等（親子体験教室、古代史講座等）への参加者数 | 672 人 | 713 人 | 696 人 | 336 人 | 359 人 | - |

## 基本目標3　文化を通じた連携のまちづくり

### 施策8　分野を超えた連携の推進

① 取組の状況

本市の市民第九演奏会は、市と文化財団が主催者となり、中部大学（実行委員会事務局）や合唱団・交響楽団（出演者）との協働により実施しています。

また、文化財団においては、市内外のプロ・アマ劇団や大学のサークル等と協働し、人形劇フェスティバルを開催しています。そのほか、企業・団体等と協賛により、子ども達の芸術鑑賞支援を行っています。

一方で、商工会議所、商店街等との連携については、継続的な取組にまでは至っていない状況にあります。

② 目標達成状況

成果指標「大学や企画、各種団体等と市、文化財団との連携による事業の参加者数」は目標を達成していますが、2018 年度（平成 30 年度）、2019 年度（令和元年度）と比較すると減少しています。

【成果指標の推移】

| 指標 | 策定時値 | 実績 | | | | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2018 年度（H30 年度） | 2019 年度（R 元年度） | 2020 年度（R2 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R 年度） |
| 大学や企画、各種団体等と市、文化財団との連携による事業の参加者数 | 1,546 人 | 2,420 人 | 2,588 人 | 277 人 | 1,636 人 | 1,600 人 |

※2020 年度（令和２年度）は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により中止となった事業があったため参加者が減少している。

## 施策9 文化による地域の活性化

① 取組の状況

「かすがい どこでも アート・ドア」事業などの機会に、文化をきっかけとした市民同士の交流を促進することで、文化芸術を通じた地域の活性化を図ってきました。そのほか、文化財や郷土芸能の保存団体の活動を支援することで、地域の交流を促進し、地域の活性化に寄与しています。

② 目標達成状況

成果指標「生涯学習活動団体の会員数」は、高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響で減少傾向にあります。

【成果指標の推移】

| 指標 | 策定時値 | 実績 | | | | 目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2016 年度（H28 年度） | 2018 年度（H30 年度） | 2019 年度（R 元年度） | 2020 年度（R2 年度） | 2021 年度（R3 年度） | 2021 年度（R 年度） |
| 生涯学習活動団体の会員数 | 14,868 人 | 13,794 人 | 13,673 人 | 13,264 人 | 12,047 人 | 15,000 人 |

## 4 現状を踏まえた課題

### （1）文化芸術鑑賞の機会の提供

○高年齢層の鑑賞機会が少ない状況にあり、オンライン鑑賞の機会は特に少ない。

○事業の充実が求められており、子ども向けの事業の充実を求める人も多くなっている。

○「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が整備され、文化芸術活動を通じた共生社会の実現が求められている。

➡ だれもが文化芸術に親しむことができる機会の充実。

➡ 文化財団等の事業の、より一層の充実。

➡ オンライン鑑賞を手助けする取組の推進。

### （2）文化芸術活動を担う人材の育成

○文化芸術活動に携わる人が減少しており、幅広い年代で担い手が不足している。

○担い手不足により、様々な文化芸術活動団体の運営が厳しくなっている。

○市民アンケートの結果では、市が力を入れていくべき取組として、「文化活動に関わる指導者を育成・派遣すること」をあげる人が比較的多く、自由意見でも部活動への指導者派遣についての希望が寄せられいる。

➡ 社会教育施設と連携した文化芸術活動のきっかけづくり。幅広い年代の担い手の育成。

➡ 文化芸術を次世代へ継承するための取組の推進。

➡ 若手芸術家などを指導者として地域に派遣する取組の検討。

### （3）文化芸術情報の発信

○年代によって情報入手方法は異なり、対象者の年代に合わせた情報発信が求められている。

○ニーズの細分化があり、情報発信の一層の充実が求められており、文化芸術活動の魅力を伝える情報発信が必要。

○文化芸術にふれるきっかけづくりが求められている。

○現在活動している団体の情報が知られていない。

➡ 受け手に合わせた多様な情報発信の充実。

➡ 文化芸術の情報に接する機会が少ない市民に対しても情報を届ける手法の検討。

➡ 文化芸術の魅力が伝わるような効果的な情報発信の推進。

➡ 公民館等の社会教育施設で活動する団体の PR の推進。

## （4）市民による文化活動支援の推進

○ 「市民メセナ活動」「文化ボランティア」の認知度が低い。

○ 「春日井市市民メセナ基金」を活用した事業の規模が拡大したことにより、基金の残高がやや低下したが、寄附を事業実施につなげる取組を始めることができている。

➡ 「市民メセナ活動」が市民に浸透するような取組の推進。

## （5）文化拠点施設の充実

○拠点施設までの移動が困難であるという意見もあがっている。

○市民会館や文化フォーラム春日井と比較して、東部市民センターは利用度がやや低い。

○開館から 50 年以上経過している市民会館の老朽化対策が必要。

➡ 交通手段が限られる人でも、文化芸術活動に参加できる環境の整備。

➡ 東部地区の文化芸術の拠点施設としての、東部市民センターの機能充実。

➡ 市民会館の今後のあり方についての検討。

## （6）特色ある文化の推進

○まちの魅力をさらに高めていくためにも、春日井市独自の魅力ある文化の創出・継承が求められる。

○道風記念館の認知度、利用度が低い。「自分史」の認知度も低い状況にある。

○誰もが参加できる、書を身近に感じられる取組が求められている。

➡ 「書」について、より幅広い層を対象に、多くの市民が集まる機会を利用した企画の検討。

➡ 道風記念館について、PR 方法の検討。幅広い層を対象とした企画の検討。

➡ 「自分史」事業と他の分野との連携や、これから自分史に取り組む人の関心を呼ぶような企画の検討。

## （7）文化財・伝統芸能の保存・継承・活用

○地域の郷土芸能に愛着や誇りを感じる人の割合がやや低い。

○持続可能な未来に向け、地域の文化的な資産を後世へ継承していくことが求められる。

➡ PR 方法の検討。なじみのない人の理解が深まるような企画の検討。

➡ 地域と連携し、文化財や郷土芸能を保存・継承・活用していくための取組の継続。

➡ 文化財に関する調査の推進。調査成果を基にした文化財への関心を向上させる取組の推進。

## （8）分野を超えた連携の推進

○「文化芸術基本法」では、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の文化関係施策を含めて推進していくことがうたわれている。

○商工会議所や商店街等との連携については、継続的な取組にまでは至っていない。

➡ 観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等と連携した取組の推進。

➡ 地域振興や産業等、様々な分野に文化芸術の力を生かし、活性化につなげる方法の検討。

## （9）文化芸術の推進による地域の活性化

○文化が地域の活性化にはつながっていない。

○ライフスタイルや価値観の多様化等により個人での活動を重視する傾向にある。

○高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響により活動に携わる人が減少している。

➡ 文化を媒介とする、地域が活性化するような取組の支援。

➡ 地域の文化財や郷土芸能などの保存活用を通して、地域のつながりが生まれる活動の支援。

# 第3章　プランの基本的な考え方

## 1　基本理念

文化を創造し、享受することは、人が生まれながらに持っている権利です。すべての市民が自主性を尊重され、住んでいる地域や身体的な条件等の要因にかかわらず、文化活動を行うことができるまちづくりが必要であり、そこに市民一人ひとりが主役として参画することが重要です。

本市では、総合的な施策を推進するための基本的方向を定めるものとして、2002 年（平成 14 年）７月に「春日井市文化振興基本条例」を定め、本市における文化芸術振興の基本理念を明文化しています。

また、2017 年（平成 27 年）３月に行った「文化・スポーツ都市」宣言では、文化・スポーツのまちづくりに向けた決意を示しています。

本プランでは、「文化・スポーツ都市」宣言の趣旨を受け、また文化振興基本条例で定めた基本理念を実現するため、「世代を越えて響き合う　文化創造のまち春日井」を目指すべき 10 年後の姿とし、基本理念として設定します。

基本理念

**世代を越えて響き合う**
**文化創造のまち春日井**

● 春日井市文化振興基本条例における基本理念 ●

1　市民一人ひとりの自主性・創造性の尊重

2　市民・企業等・財団・市の協働

3　すべての市民が文化活動を行うことができる環境の整備

4　多彩な分野・多様な水準にわたる文化の保護・発展

5　市民の意見の反映

● 文化・スポーツ都市宣言 ●

文化やスポーツは、心豊かな生活やいきがいづくり、健康づくりに必要なものであるとともに、地域に対する愛着や誇りを育て、地域コミュニティの醸成に大きな役割を果たします。

私たちは、文化やスポーツのもつ力をあらためて認識しつつ、市民、企業等及び市が一体となって、明るく心豊かで活力あるまちをめざし、「文化・スポーツ都市」を宣言します。

1　私たちは、文化を愛し、創造と継承の心を育みます

1　私たちは、スポーツに親しみ、健やかな心と体をつくります

1　私たちは、文化やスポーツを通して地域の絆を深め、
すべての市民がいきいきと暮らせるまちをつくります

文化振興基本条例
5つの基本理念

文化・スポーツ都市
宣言

**世代を越えて響き合う**
**文化創造のまち春日井**

文化振興の課題への対応

(1) 「書のまち」「自分史」など特色ある文化の推進・発信
(2) 「市民メセナ活動」の市民への浸透
(3) だれもが文化芸術に親しむことができる環境の整備
(4) 多様な媒体・手法による情報発信の充実
(5) 文化財・伝統芸能の保存・継承・活用による地域の活性化
(6) 文化芸術の幅広い分野との連携の推進

## 2 基本目標

前期プランでは、基本目標を「参加と体験による文化が生まれる環境づくり」、「特色ある「春日井文化」の継承・創造」、「文化を通じた連携のまちづくり」としていましたが、後期プランでは、前章でまとめた課題の解決に向けて、独自文化の創造と継承、だれもが文化芸術に親しめる環境づくり、文化芸術を生かしたまちづくりの視点で施策を整理しなおすこととし、基本目標を以下の通り設定しました。

### 基本目標１ 「春日井文化」の創造と継承

「書のまち春日井」や「自分史」、「市民メセナ活動」など春日井市の特徴的な文化的取組＝「春日井文化」の普及啓発を推進し、あわせて拠点となる施設の活性化を図ります。

また、子どもたちから高齢者まで幅広い年代の人たちが文化芸術活動を通じ、それぞれが文化の担い手として自己実現を果たすことのできる環境を整備します。

### 基本目標2 だれもが文化芸術に親しむことのできる環境の整備

すべての市民が、年齢や障がいの有無、経済的な状況等にかかわらず、文化芸術を鑑賞することができ、創造等を行うことができる環境づくりに取り組みます。

また、あらゆる年齢や環境の人が文化芸術に関する情報を受取ることができるよう、情報発信の拡充に努めます。

### 基本目標3 地域の資産を活用した地域力の向上

本市の長い歴史のなかで、人々の営みにより培われてきた貴重な文化財や地域の伝統文化を保護・保存し、未来に継承していく取組を推進します。また、これら豊かな歴史・文化資産の調査研究を進め、その成果を公開・活用することで、地域の活性化に結びつくよう努めます。

あわせて、地域の大学や企業など、幅広い分野の団体との連携をさらに進め、「文化芸術を振興」し「文化芸術で振興」するまちづくりを推進します。

## 3 施策の体系

審議会での検討が終わってから図表化し、
次回7月 11 日開催の第 2 回審議会で提示します。